

# 在宅医療・福祉・介護の実践

—地方の開業医の取り組み—

(医) らぼーる新潟

(福) 豊潤舎

理事長 荻荘 則幸

H9年6月16日 ゆきよしクリニック(整形外科・リハビリテーション科)開業

H11年3月5日 医療法人社団 らぽーる新潟設立

H11年10月1日 居宅介護支援事業所設立

H12年4月1日 介護保険実施 指定居宅サービス事業所(訪問看護・訪問リハビリ)

H12年度 823件

H13年度 2,992件

H14年度 4,042件

H15年度 4,683件

H16年度 4,904件

H17年度 7,644件

H14年7月1日

亀田東クリニック

楽しいちデイケア(通所リハビリ施設)・・・定員15名

H15年4月1日

楽しいちデイサービス(通所介護施設)・・・定員30名

H15年9月1日 定員20名で土曜を開始

H16年5月1日 平日定員35名

H17年6月20日 平日定員40名

H19年1月8日

平日定員45名, 土曜定員25名

H22年8月

ショートステイゆきよし 定員32名

H16年12月16日

有限会社 ぷらむ

(補助具・日常生活用具販売会社)設立

H17年10月21日

社会福祉法人 豊潤舎 設立

H18年4月1日(3年間)

指定管理者制度の受託

新潟県障害者リハビリテーションセンター

(肢体不自由者更生施設) 入所・通所・短期入所

H21年4月(5年間)

指定管理者として再受託

H23年4月

介護老人福祉施設 定員29名

H18年4月1日

介護保険改正

H18年度 11,309件

H19年度 13,805件

H20年度 14,294件

H21年4月1日

短時間通所リハビリ定員20名



日本  
JAPAN



北海道

青森

秋田

岩手

新潟

新潟県  
NIIGATA

## 当院の訪問エリア

縦:約30km

横:約47km

面積:627km<sup>2</sup>

\* 東京23区合計 616km<sup>2</sup>

新潟県  
NIIGATA



岩船郡

粟島浦村

山北町

岩船郡

朝日村

村上市

神林村

荒川町

岩船郡

関川村

山形県

北蒲原郡

聖籠町

新発田市

新潟市

阿賀野市

東蒲原郡

阿賀町

西蒲原郡

弥彦村

三島郡

出雲崎町

刈羽郡

刈羽村

柏崎市

上越市

小千谷市

川口町

津南町

中蒲原郡

湯沢町

南魚沼郡

魚沼市

南魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

魚沼市

</

# 新潟市

新潟市ホームページより

(平成21年12月末現在)

人口／804,609人

男：387,949人

女：416,660人

世帯／309,921世帯

面積／726.10km<sup>2</sup>



- 当院がある新潟市は、人口804,609人、世帯数309,921世帯、県庁所在地であり、本州日本海側唯一の政令指定都市である。
- 当院の訪問範囲は新潟市の一部地域(南区・江南区・東区・中央区・西区・北区)とし、求めに応じて新潟市西蒲区、阿賀野市、新発田市と五泉市の一部地域の総面積約627km<sup>2</sup>である。















新洲駅  
Shinshu Station

新洲駅  
Shinshu Station  
万代橋  
Manbai Bridge

11-3  
7-10









2007.7.21 柏崎市



















92 10 6





11.11.2025



'92 7 31





Only one bird in "SADO" island, Niigata, Japan.







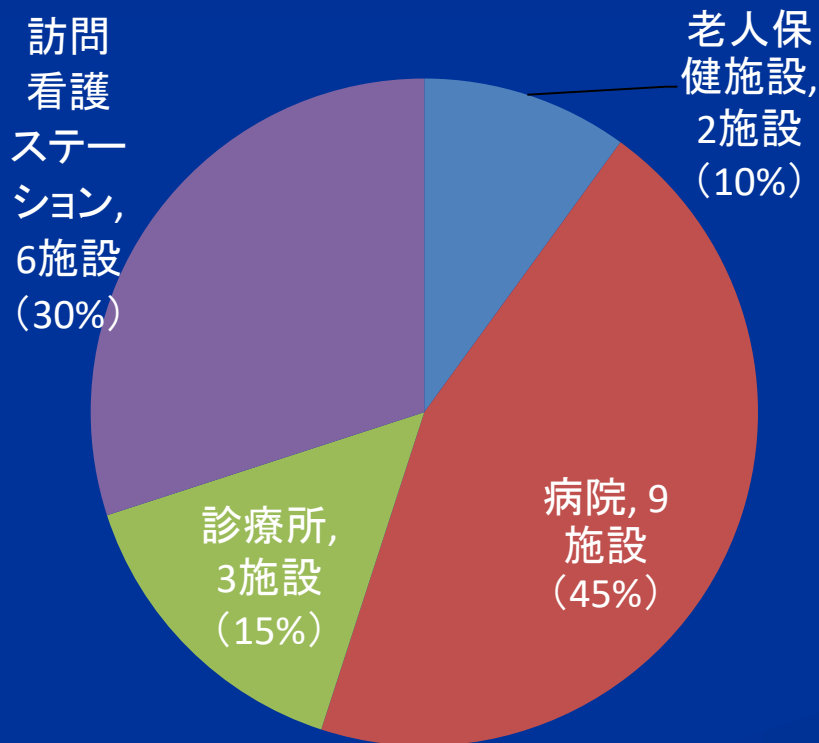




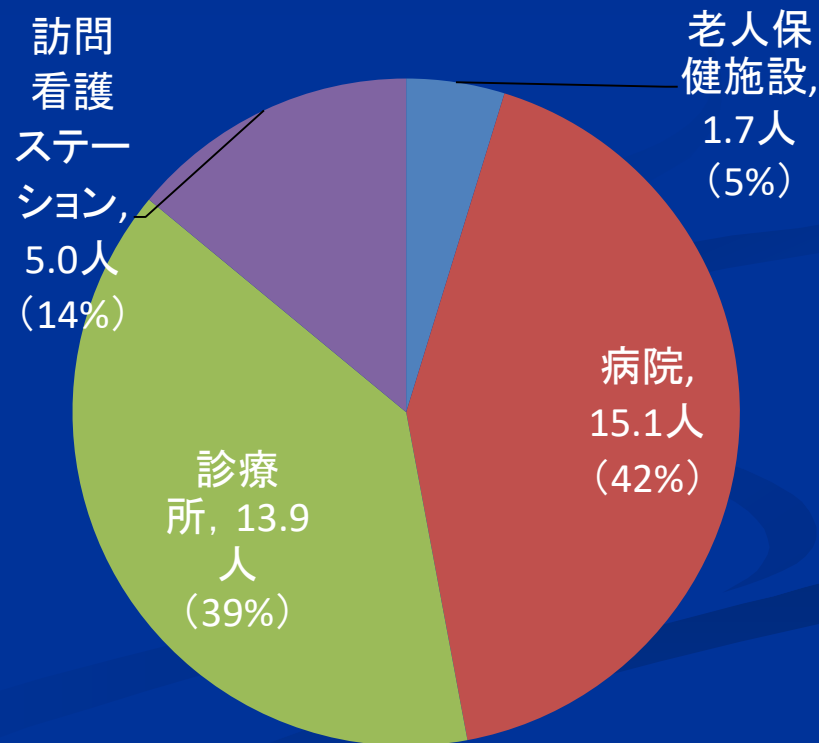
# 新潟市の訪問リハの現状

平成20年度新潟県介護サービス情報  
公表センターより

## 事業所の種類



## 療法士数(事業所の種類別常勤換算の総数)



# 当院の紹介 “生粋の訪問リハ”



理事長 荻莊 則幸(おぎしょう のりゆき)

ゆきよしクリニックは、整形外科・リハビリテーション科を専門に平成9年6月から外来診療を行っています。介護保険が始まった平成12年4月からは、居宅介護支援事業者としてまたサービス事業者として理学療法士、作業療法士による訪問リハビリテーションを行っています。

平成14年7月には、亀田駅東口に通所介護施設『楽しいちデイサービス』を開設いたしました。



(河本のぞみ:検証 訪問リハと訪問看護. 三輪書店. 2007)

## 訪問リハビリテーションと生活支援

荻荘則幸\*

## はじめに

新潟県は南北に約 300 km、日本海に面した広大な県です。新潟市より日本海を西へ渡る 40 km 先には朱鷺で有名な佐渡島があります。筆者は平成 9 年 6 月に新潟市（旧亀田町）に整形外科とリハビリテーション科の医院を開設しました（医療法人社団らばー新湯「ゆきよしクリニック」〔以下、当院〕）。その後、平成 14 年 7 月に通所リハビリテーション施設「楽いち」（その後、通所介護施設に変更）の開設、平成 17 年に社会福祉法人「豊潤舎」を立ち上げ、平成 18 年 4 月より「新潟県障害者リハビリテーションセンター」の経営を行っています。それまでの経歴は、昭和 59 年、新潟大学整形外科に入局後、いくつかの病院で外来、手術、リハビリテーションなどの研修を行い、その後、手の外科、マイクロサージャリーを専門に選び、直径 1 mm 以下の血管・神経を縫合する手術や組織移植の手術、手の外科、実験などに朝から晩まで没頭している生活を送っていました。在宅医療、リハビリテーションとはまったく縁のない生活を送っていた筆者の転機は、平成 3 年に新潟県の身体障害者福祉の“変”である新潟県身体障害者更生相談所（以下、身更相）という行政機関への出向を大学の医局から命じられたことでした。

## リハビリテーション、在宅医療との出会い

身更相に移ってからは身体障害者関係の法令、通知集をかたわらに身体障害者の手帳や義肢、装具、手当の診断書、施設入所などの判定や施設・業者の監査、行政指導、各種団体への講義、県内 112 市町村（当時、市町村合併前の数）への出張業務など県全体を対象にしたグローバルな分野での仕事で、まったくいままでの仕事と異なる世界へ右も左もわからぬまま飛び込まざるを得ませんでした。ここが筆者が在宅医療、リハビリテーションへ向かう出発点でした。当初は、あまりにもいままでの仕事と内容が乖離しているため戸惑うことばかりでした。

しかし、平成 4 年に日本リハビリテーション医学会の認定臨床医に合格し、徐々にリハビリテーション医学の勉強をしていくうちに「第三の医学」とも呼ばれている「リハビリテーション医学」に興味を持ち始め傾倒していきました。それまで筆者は医学のスペシャリティはナノテクノロジーに代表される、より微細な分野を追求することにあると思っていました。また、リハビリテーションは単に機能回復、機能訓練としか理解していませんでした。しかし、本来は「権利の復権」「更生」「自立と参加」などに訳されるリハビリテーションという言葉が「福祉」という概念をも包括していることを知ってから筆者の医師としての生き方の方向性が大きく変わり

\* おぎしょうのりゆき／医療法人社団らばー新湯ゆきよしクリニック・楽いちデイサービス 理事長／社会福祉法人豊潤舎新潟県障害者リハビリテーションセンター 理事長、医師（〒950-0122 新潟県新潟市江南区稲葉 1-4-3）

## び当地訪問リハ

## 実践報告

## 第6回

政令市新潟  
訪問リハを  
実践する  
診療所あり

大越 満

医療法人らぼーる新潟ゆきよしクリニック、  
作業療法士

## はじめに

医療法人らぼーる新潟ゆきよしクリニック（以下、当院）がある新潟県新潟市は平成19年4月に政令指定都市になりました。食糧自給率60%が示すとおり越後平野には広大な田園が広がります。さて、本稿では診療所である当院の訪問リハの実践報告と新潟県という気候が生み出す訪問リハの特徴を報告します。

## 雪国新潟

この冬は全国的に記録的な暖ハは99%自動車を使って移動すとも助けられました。例年は化し、着雪、凍結、事故による

平成17年12月22日、“新潟全国的にも報道されたのでう。その日の出来事です。当日自動車の渋滞があらこちらで交差点では四方から来る自動車内に進入し、“無法地帯”と化し進まない車内から、向かってい電話をかけました。Aさんは奥

筆者が「申し訳ありません。てますが、車が進まずにおりま奥様は「こっちは停電が起きて夫です。もっと大変なお宅に行

このような会話のやり取りが宅への訪問は急遽取りやめにな事する当院の作業療法士は、「まに訪問しているようだった」とりました。

雪とえばこのようなこともう老夫婦世帯です。介護者であは控えがちです。夜半に雪が深



特集

訪問リハビリ  
テーションと生活障害

ICFにおける生活障害の考え方  
生活障害と訪問リハビリテーションアプローチ  
セルフケアへのアプローチ  
生活関連活動へのアプローチ  
移動と移乗を生活全体で考える  
コミュニケーションへのアプローチ  
社会参加(生活機能拡大)へのアプローチ

5  
May  
2010

三輪書店



平成18年度  
全国訪問リハビリテーション研究会 in 新潟



「今、訪問リハビリに  
求められていること」  
田中 寛  
田中 寛  
田中 寛

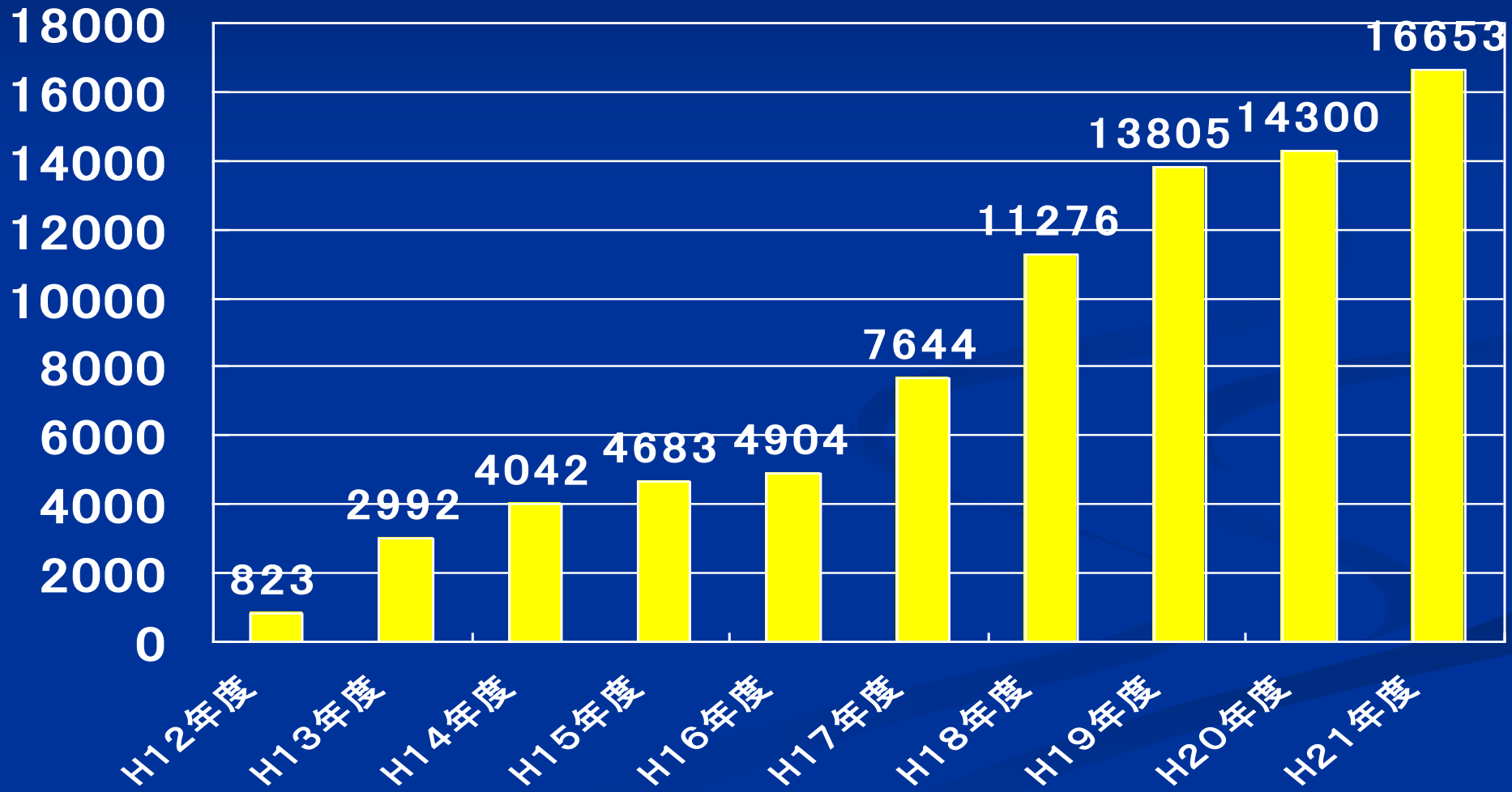
「医療機関における  
訪問リハの管理、運営」  
田中 寛  
田中 寛  
田中 寛

「神経難病の在宅医療」  
田中 寛  
田中 寛  
田中 寛



# ゆきよしクリニック

## 訪問リハ実施件数 年度別推移



# 疾患別訪問リハビリテーション利用者

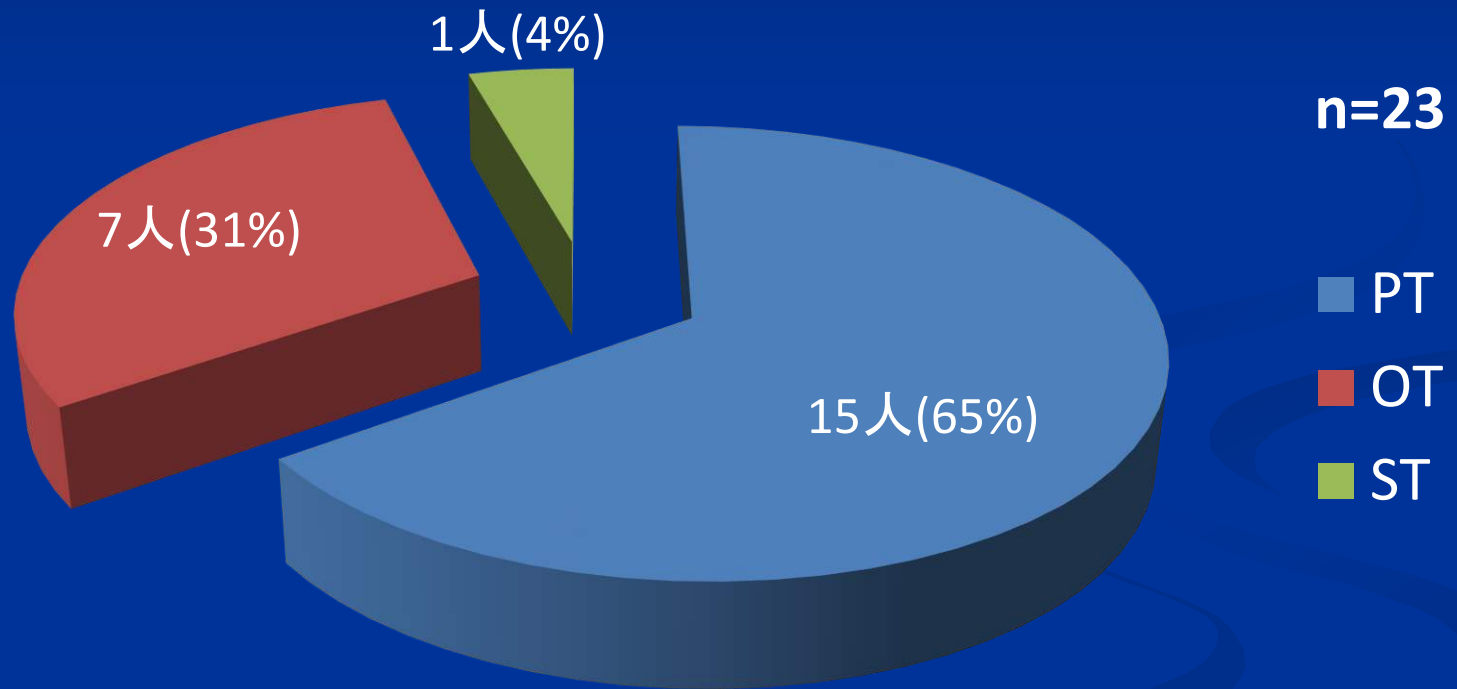
1. 脳血管疾患(脳梗塞、脳出血etc)	131名(126名+5名)
2. 骨関節疾患(脊柱狭窄症、後縦靱帯骨化症)	22名(20名+2名)
3. 神経・筋変性疾患	65名(50名+15名)
4. 脊髄損傷	17名(14名+3名)
5. 脳性麻痺	12名(9名+3名)
6. 呼吸・循環器疾患	16名(15名+1名)
7. その他(変形性関節症、変形性頸椎症、腰椎症、大腿骨頸部骨折、関節リウマチetc)	91名(87名+4名)

n=354(介護保険利用者224名+医療保険利用者33名)

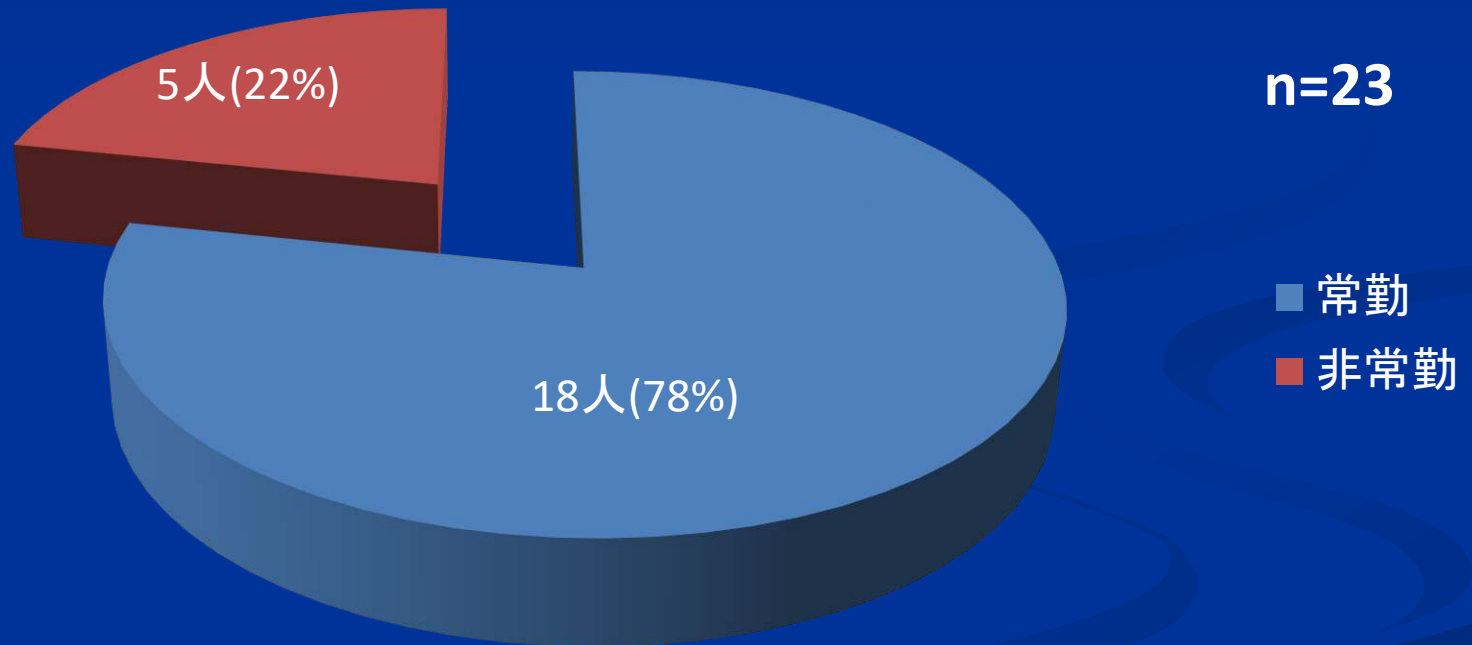
:平成22年7月



# 当院の訪問リハビリ 療法士の構成割合



# 当院の訪問リハビリ 雇用形態



# 当院の訪問リハビリ

- 平成 9年6月・・・開設.  
平成12年4月・・・居宅介護支援、訪問リハを開始.  
平成21年4月・・・短時間通所リハを開始.
- PT15名(非常勤3名), OT7名(非常勤2名), ST1名  
が勤務. 毎月の訪問件数は平均1,600件.
- 訪問範囲は新潟市のほぼ全域と隣接市町村の一  
部まで訪問(訪問圏域は面積にして627km<sup>2</sup>).
- 利用者の約7割は当院以外の医療機関に主治医  
がいる.

# 当院の訪問リハビリ

## リハスタッフの業務

- 直接利用者宅へ行き、直接帰宅する(直行直帰).
- 当院へは週1回寄るが、業務連絡はメールが多い.
- 日報の作成.
- リハ実施計画書の作成.
- 評価表の作成.
- 当月の実績確認.
- リハミーティングと勉強会.

➔ 当院独自の“訪問リハビリ”専用ソフトの開発

(平成20年9月)

# ソフト画面 ①

介護総合管理 介護保険業務支援メニュー ゆきよしクリニック 終了

訪問リハビリ	利用者管理	利用者台帳基本入力
	利用者管理	利用者一覧表印刷
	利用者実績管理	利用者名簿印刷
	サービス提供票・状況照会	介護保険証チェックリスト印刷
	日誌・報告書準備処理	主治医一覧表印刷
メンテナンス		居宅事業所一覧表印刷
		契約時各種印刷
		指示書御礼印刷
		契約書等送付状印刷
		居宅療養管理指導書印刷
システム		指示書
		報告書・計画書
		主治医依頼書報告書印刷
		ケアマネ報告書印刷
		担当者報告書印刷
		評価表
		評価表取り込み

(ソフトのメニュー画面)

居宅:カテ入力

受付番号  カルテ番号  登録/更新 クリア 印刷 閉じる

登録日

フリガナ <input type="text"/>	性別 <input type="text"/>
氏名 <input type="text"/> 様	生年月日 <input type="text"/>
住所 <input type="text"/>	電話番号 <input type="text"/>
	緊急連絡先 <input type="text"/>

主治医

主たる傷病名

居宅事業所

介護保険	保険外利用 <input type="checkbox"/>	保険者 <input type="text"/>
	被保険者番号 <input type="text"/>	認定日 <input type="text"/>
	介護度 <input type="text"/>	認定期間 <input type="text"/> ~ <input type="text"/>

特 疾 <input type="text"/>	重症 <input type="text"/>
身障手帳 <input type="text"/>	県障受給者証 <input type="text"/>
	居宅療養管理指導 <input type="text"/>

入退院再開 休止日

退院(所)日  短期集中リハビリ実施加算算定期間  ~

再開日  退院等~1ヵ月(計850単位)  ~

1ヵ月起~3ヵ月(計720単位)  ~

交通費

開始日/時/単  00:00  担当  終了日  終了理由

(利用者基本台帳)

# ソフト画面 ②

担当者名:

利用者氏名:   様

関係者:

保険種別・加算:

日時: 平成  年  月  日  時  分 -  時  分

健康状態: 開始前 最高血圧  収縮  拡張   
 終了後 最高血圧  収縮  拡張   
 体温  °C SPO2   
 その他

プログラム:  心身機能への改善かけ (可動性、筋力、持久力、協調性を維持・向上させるエクササイズなど)  
 活動状況への改善かけ (日常生活活動、歩行、自主トイレの取遣と支援など)  
 参加状況への改善かけ (外出、悪化歩行、生活内服薬の高活用)  
 認知因子への改善かけ (導聴用具や聴覚の視覚、住宅改修の視覚、介助や生活上の取遣など)  
 個人因子への改善かけ (聴覚聴覚やOCL向上に向けた取り組み、通訳サービスの視覚など)

アプローチ後の効果:  良好な反応があった  変化がなかった  効果異なった、悪化して来た

主観的事実および客観的事実:

詳細および計画:

その他:

このフォームを03Nに追加する

(日 報)

担当者名:

利用者氏名:   様

生年月日:

介護度:

記載日: 平成  年  月  日

---

報告書 平成  年  月

訪問頻度:  訪問リハ開始日:

実施状況:  計画どおり  ほぼ計画どおり  あまり行われていない  全く行われていない

目標達成状況:  達成  ほぼ達成  一部達成  全く達成していない

ADL状況: パーセルインデックス  点/100点 先月からの変化  あり  なし

リハビリテーション内容:  心身機能への改善かけ (可動性、筋力、持久力、協調性を維持・向上させるエクササイズなど)  
 活動状況への改善かけ (日常生活活動、歩行、自主トイレの取遣と支援など)  
 参加状況への改善かけ (外出、悪化歩行、生活内服薬の高活用)  
 認知因子への改善かけ (導聴用具や聴覚の視覚、住宅改修の視覚、介助や生活上の取遣など)  
 個人因子への改善かけ (聴覚聴覚やOCL向上に向けた取り組み、通訳サービスの視覚など)

今後の必要性:  在宅改修  通訳サービスのサービス  福祉用具  その他

その他:

---

計画書 平成  年  月 先月からの計画変更  あり  なし

訪問リハ目標とその達成時期:  
 (サービス標準値に近づかれている標準)

問題点とその解決策:

その他:

このフォームを03Nに追加する

(リハ実施計画書)

# ソフト画面 ③

平成21年 9月 実績表

利用者名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計	
	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水		
██████████	2							2							2							2										8
██████████				2							2							2							2							8
██████████				2							2							2							2							8
██████████							2							2														2				6
██████████			2				2			2				2		2					2			2				2				16
██████████							2							2								2						2				8
██████████	2		2					2		2					2		2							2		2						16
██████████	* 2							2							2							2										8
██████████	* 2							2							2								2									8
██████████							2							2														2				6
██████████				2							2						2								2							8
██████████	* 2							2							2								2									8
██████████							1							1														1				3
██████████			2							2							2							2								8
██████████			2							2						2								2								8
██████████											2							2							2							6
██████████			1							1														1								3
██████████			2							2							2							2								8
██████████			2							2							2							2								8
██████████		2							2						2									2								8
██████████		2					2							2								2						2				8
██████████		2						2							2								2									8
██████████			?							?							?							?								8

(月間実績表)

## 【ソフト導入後の変化】

- 利用者情報が集約され、情報検索が迅速にできるようになった。また、入力した情報が他のシステムにも反映されるため、二重登録の手間やミスがなくなった。
- 日報の取り込みによる『自動集計』が可能となったため、実績管理が容易になった。
- 煩雑だった事務作業が効率的にできるようになった。



## 【 当院の業務形態との関連性 】

- 本ソフトは、当院の『直行直帰』という業務形態を変えずに、ソフトを導入できるように開発された。
- 『自宅を拠点とした業務』の遂行を更に円滑にし、リハスタッフと事務職員の双方にとって、有益なものとなった。
- 作業が効率化された事で、今後の事務職員の増員を抑制し、人件費削減の可能性が示唆される。

# 課題

- システムの課題.

データ容量が膨大で処理に時間がかかる, ソフトの操作方法が複雑, など.

- メンテナンスの課題.

定期的にシステム更新が必要. 更新は担当者が直接当院まで来て実施しているため, 更新まで時間がかかる, など.

- 現在も開発会社と頻回に更新作業を進めている.

# 新潟県の回復期リハ病棟の現状 (平成21年12月)

## ・病院数

新潟県内 10病院

全国 1,024病院

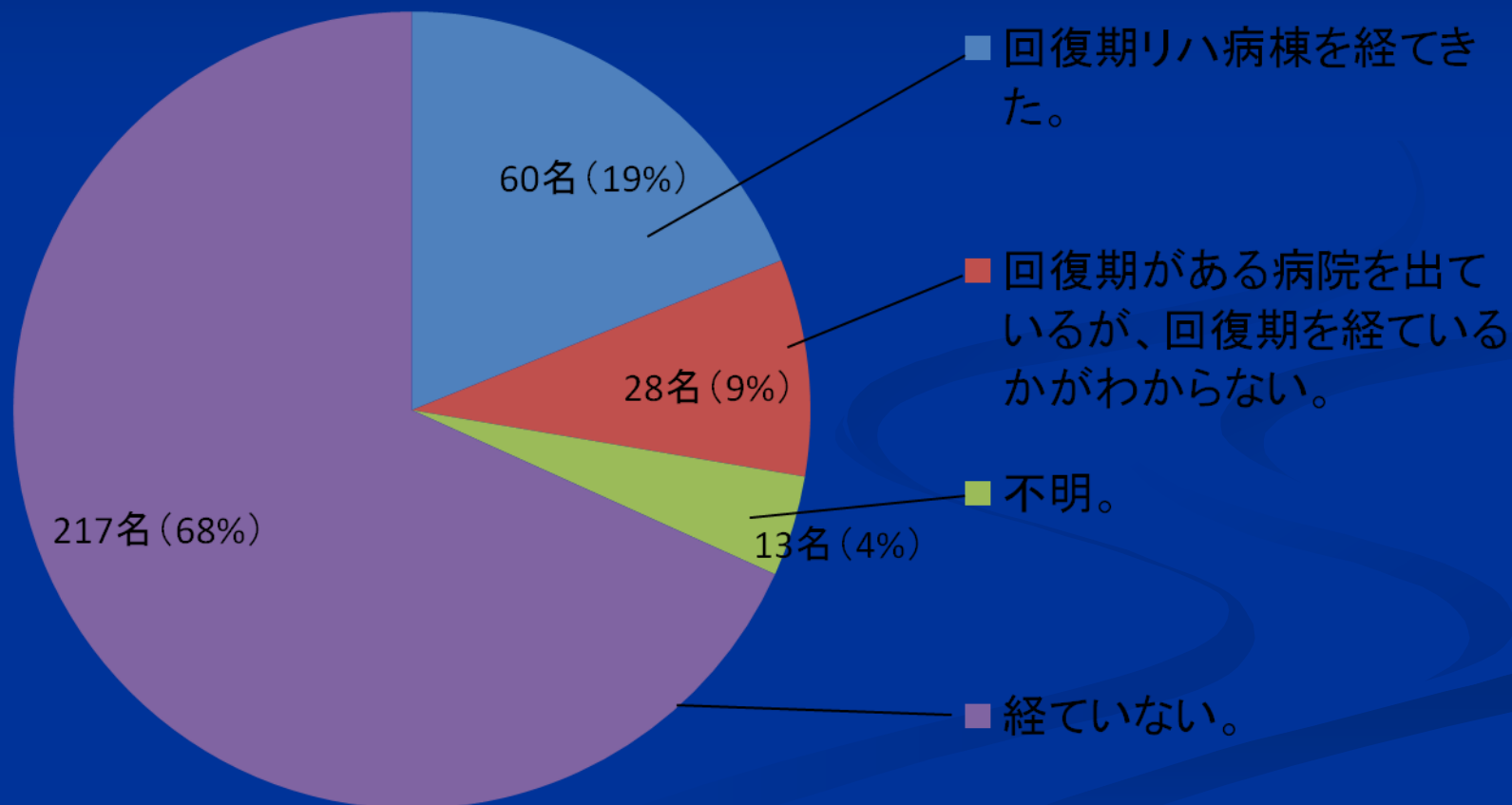
## ・人口10万対回復期リハ病床数

新潟県 約29床

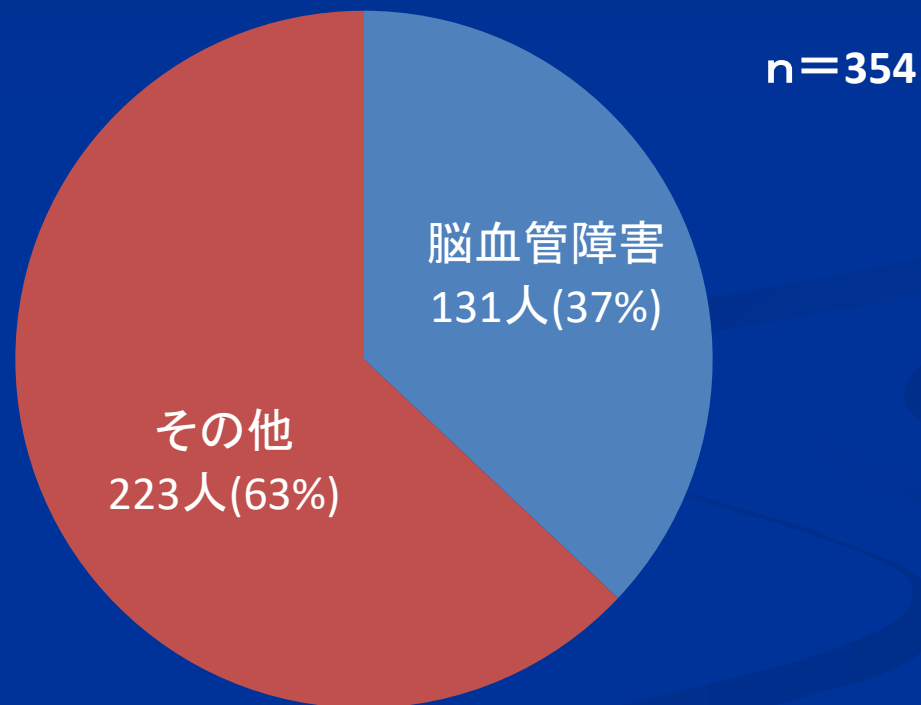
全国平均 約42床

# 当院の訪問リハ利用者の回復期リハ病棟経由の有無

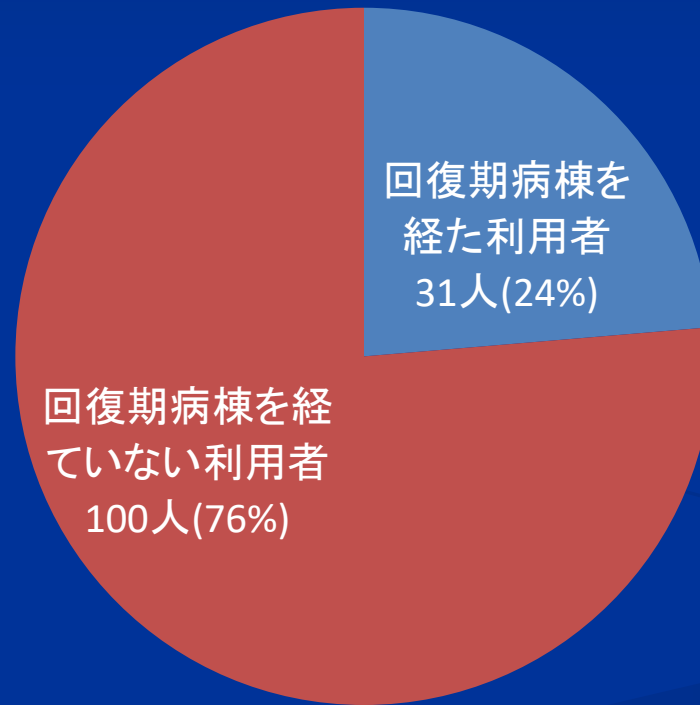
n=318



# 脳血管障害の利用者数

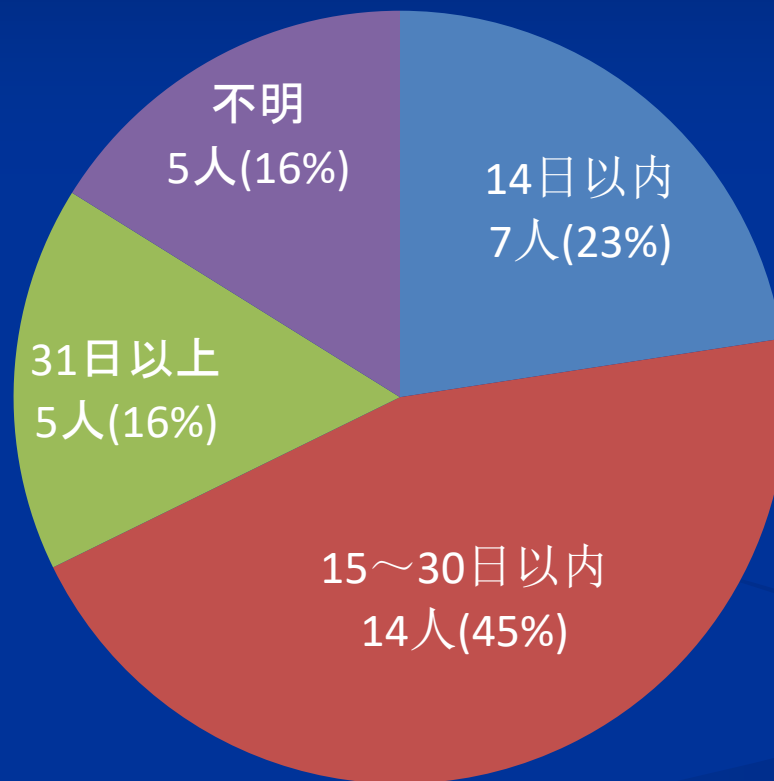


# 回復期病棟経由の有無

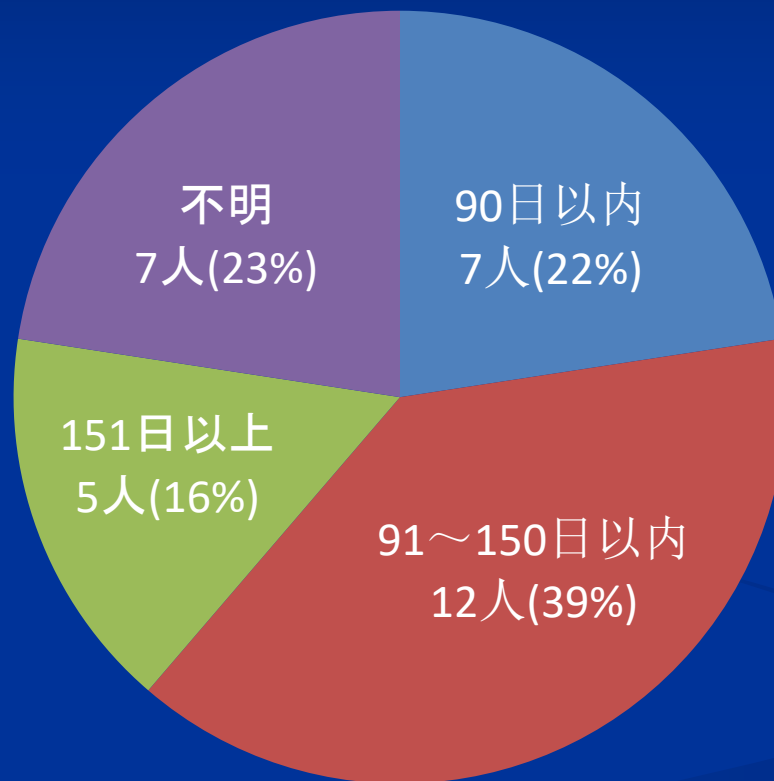


n=131

# 急性期病棟の在院日数

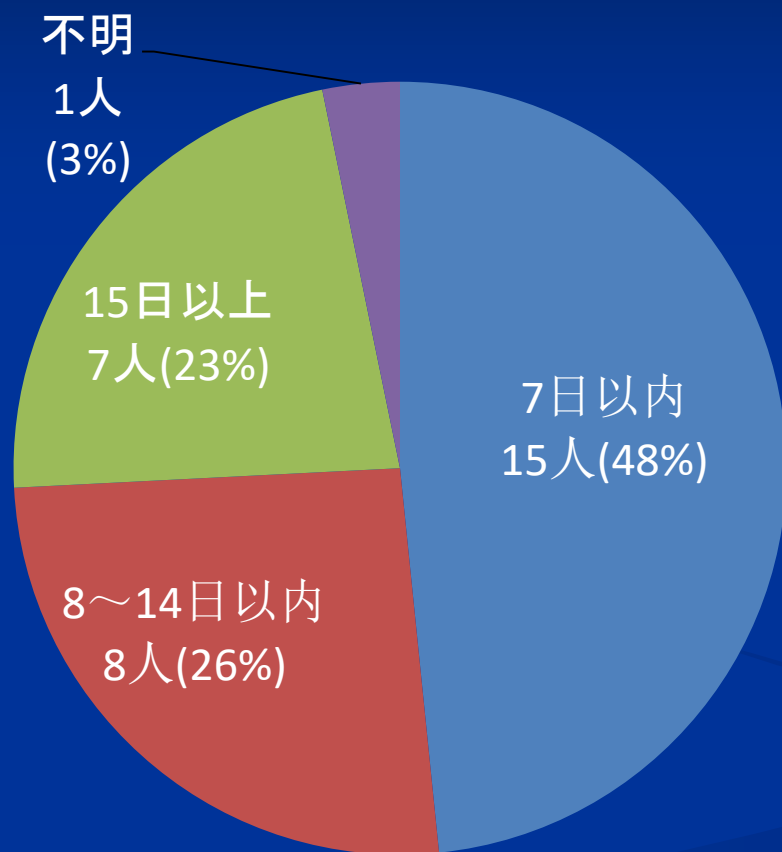


# 回復期病棟の在院日数

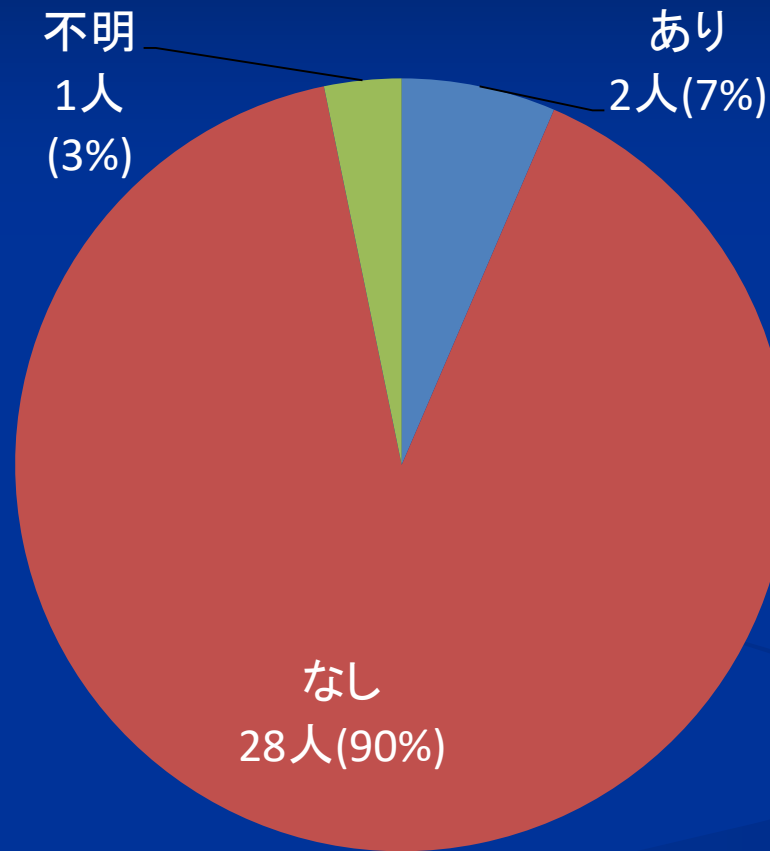




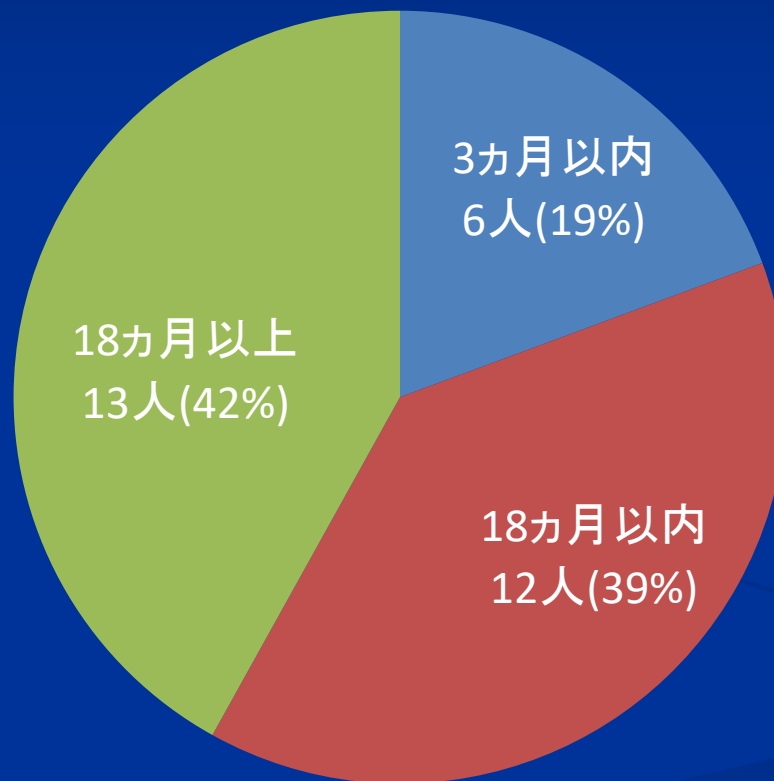
# 訪問リハ開始までの期間



# 地域連携パスの有無



# 現在(2010/6/15)までの訪問期間



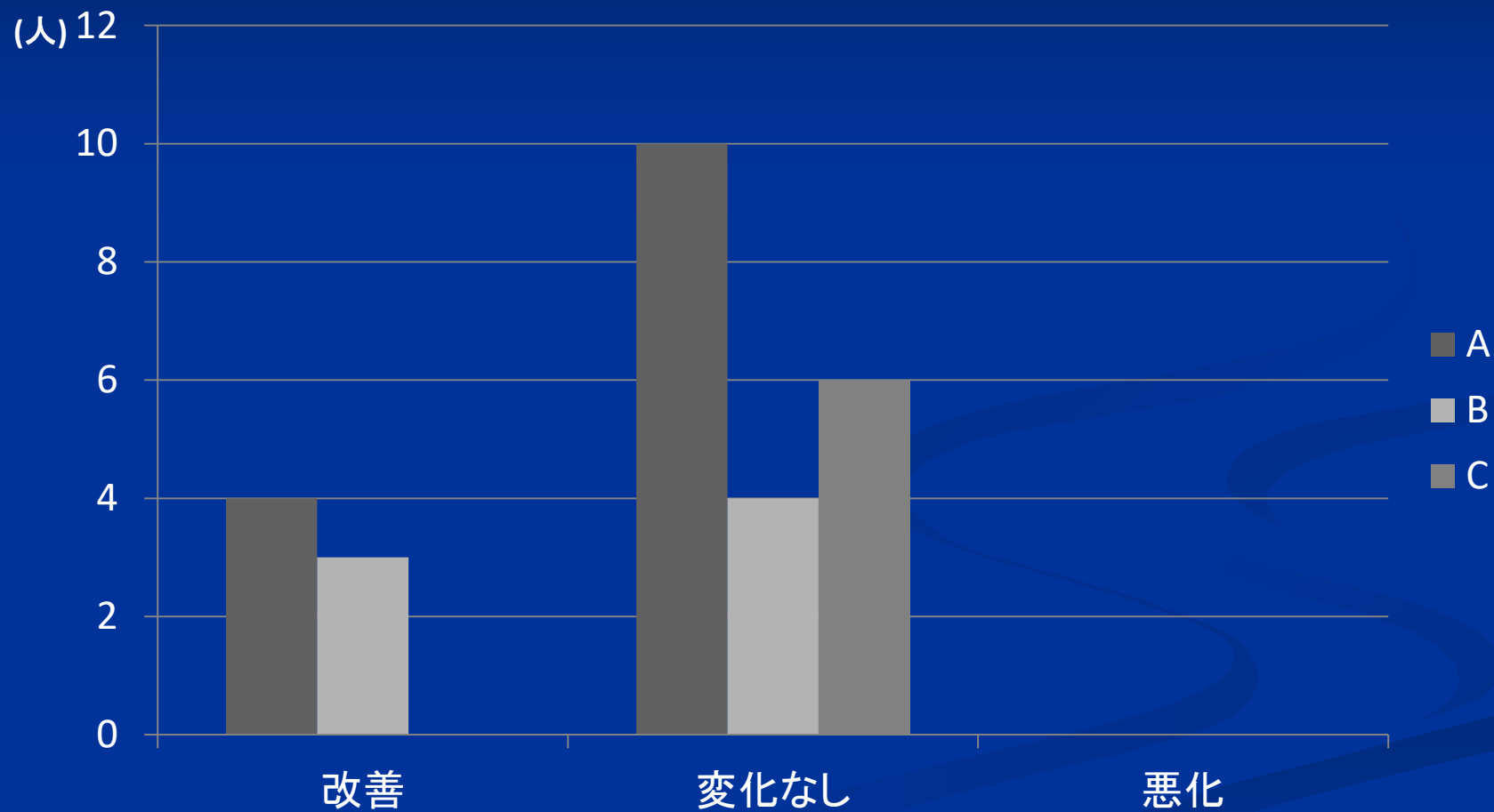
# 回復期退院日から訪問リハビリ 開始日までの期間

■ A群:7日以内

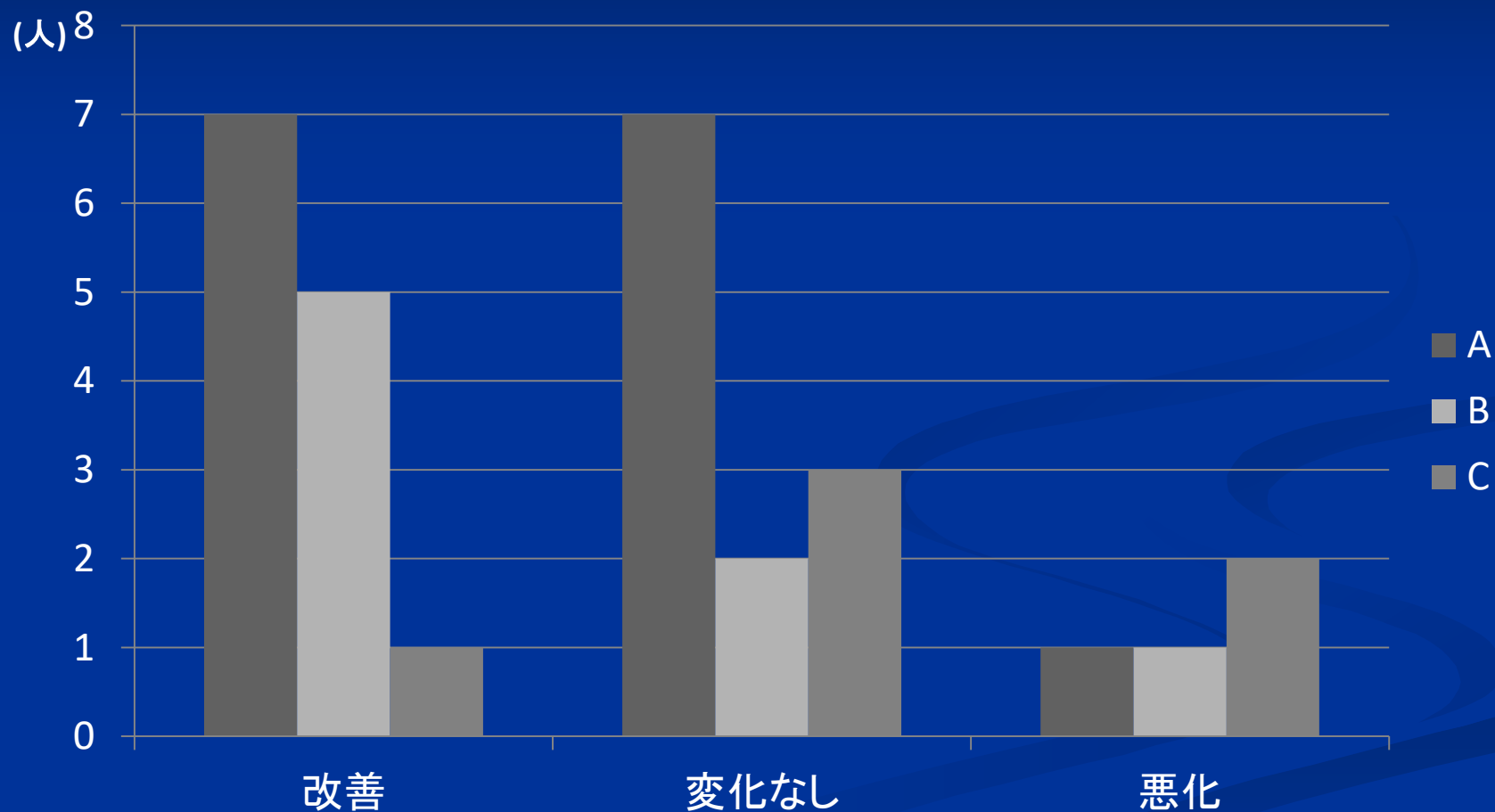
□ B群:8~14日以内

□ C群:15日以上

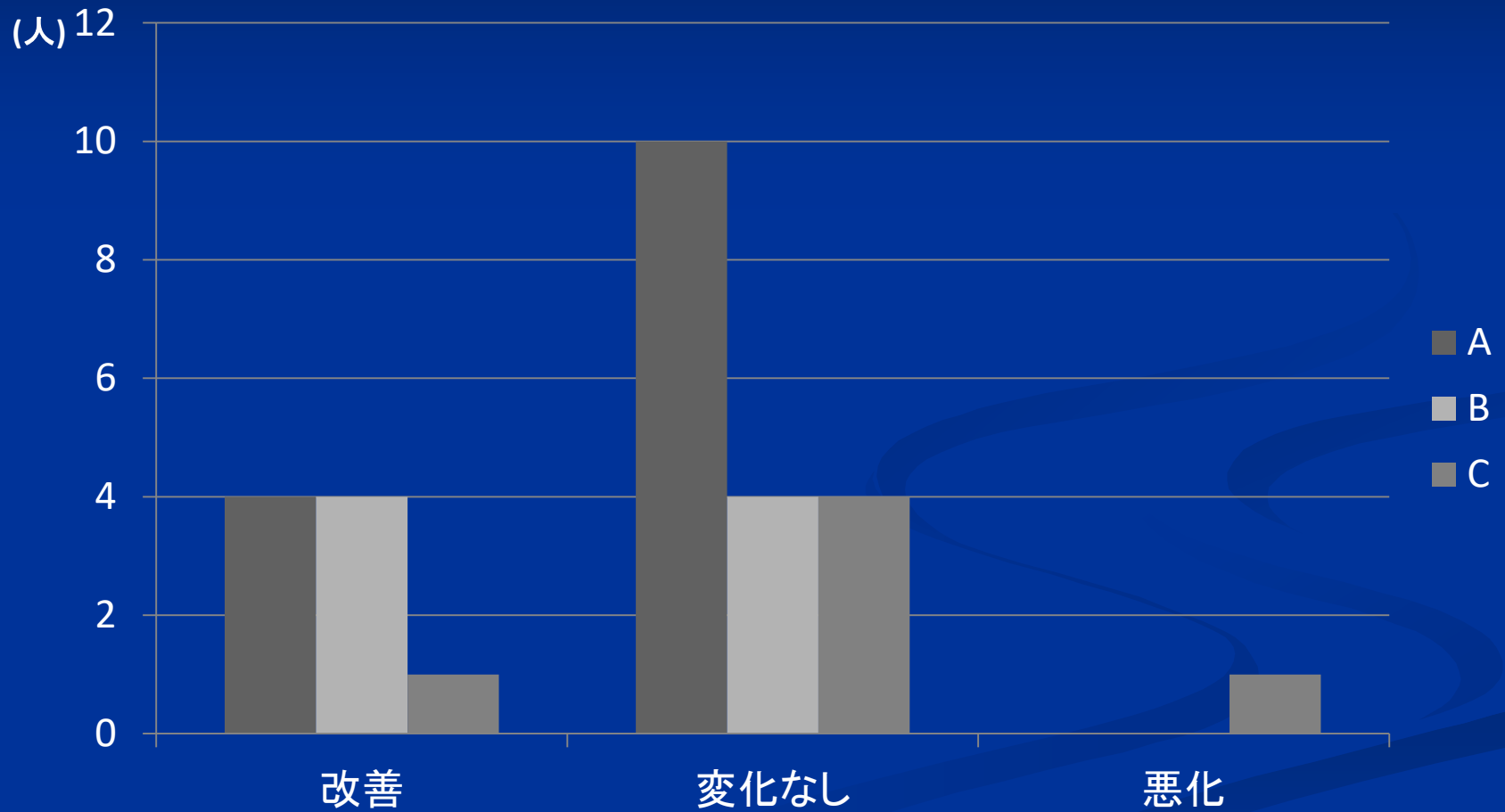
# 介護度変化



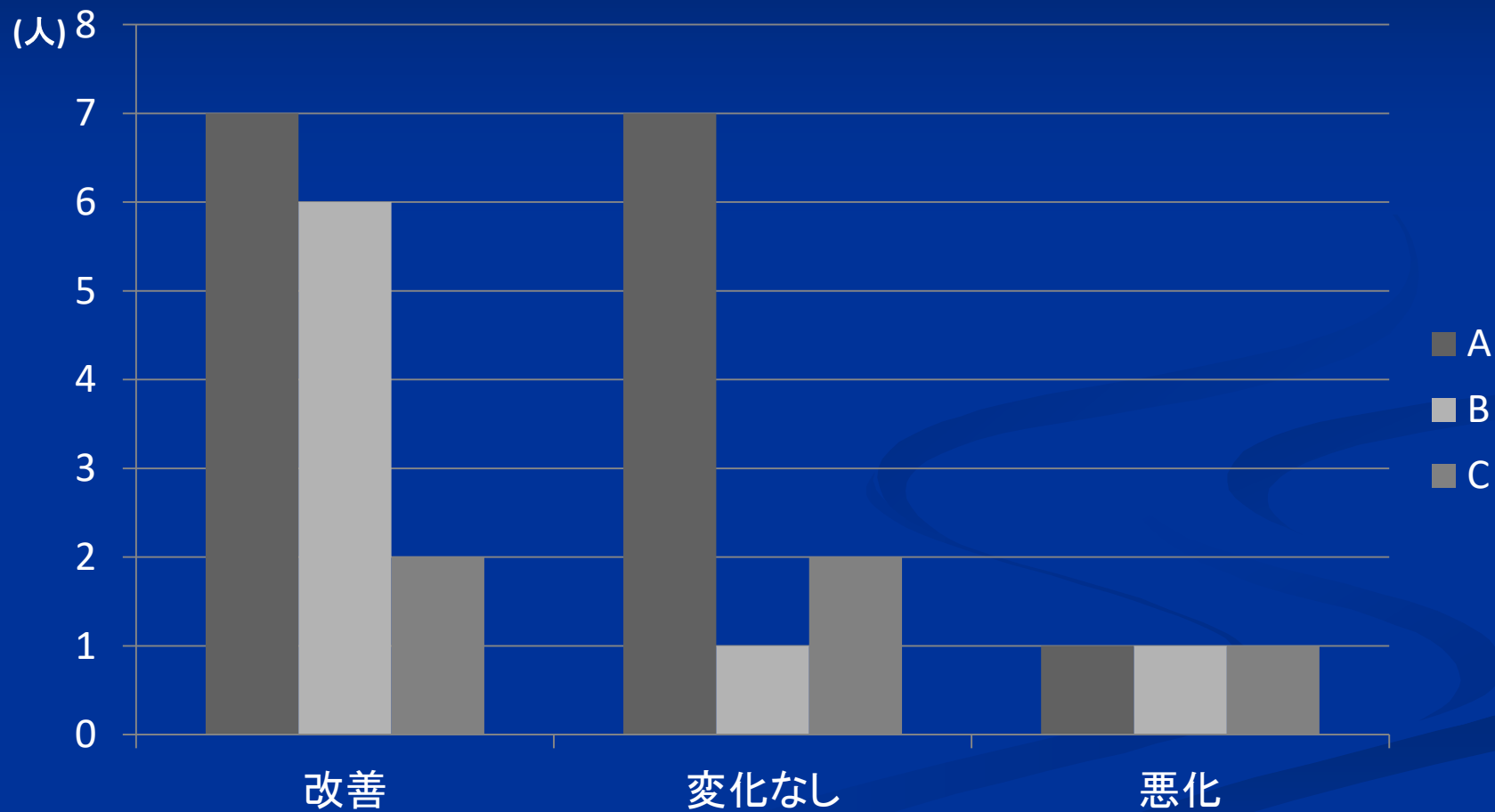
# 障害高齢者の日常生活自立度変化



# 麻痺変化(Br.stage)



# Barthel Index 変化

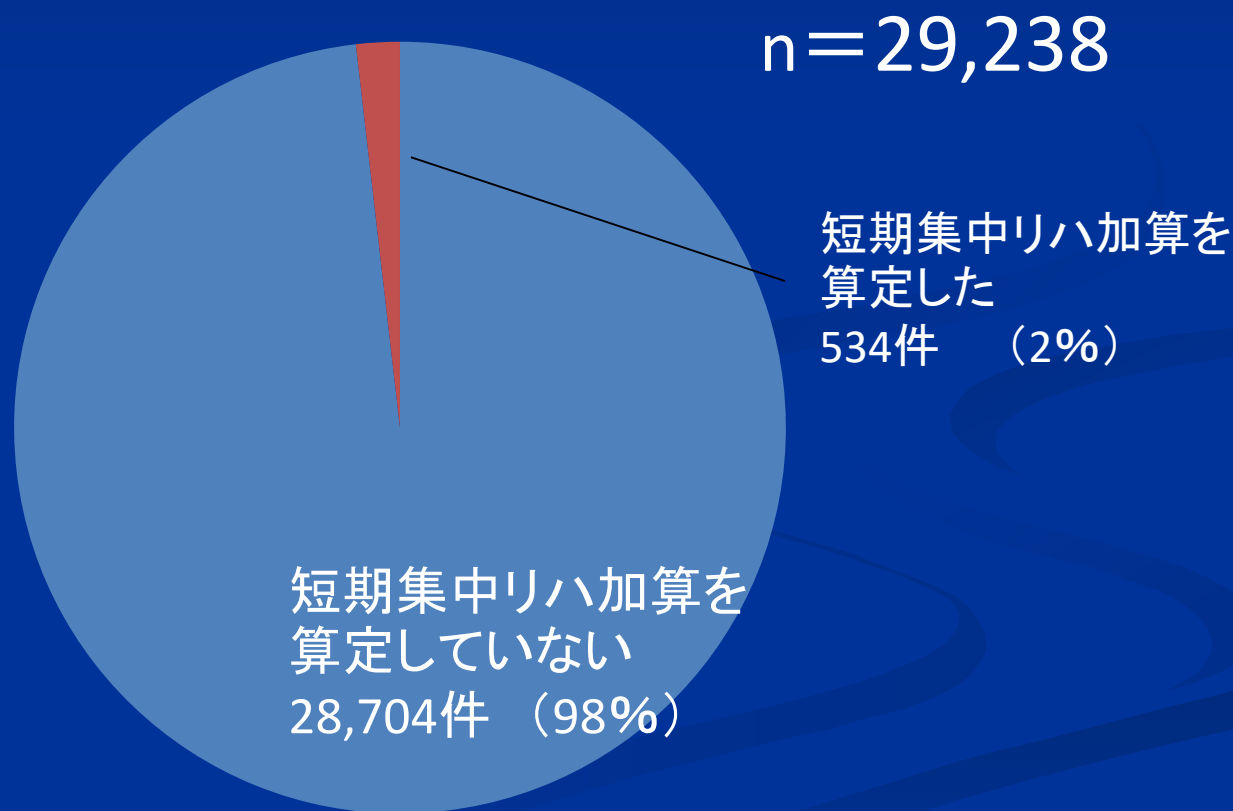




- 今回は、新潟市内における当院の短期集中リハビリテーション実施加算（以下短期集中リハ加算）を算定した訪問リハビリテーション（以下訪問リハ）の実績を調査し、訪問リハが地域で果たす役割を見出すことを目的とした。

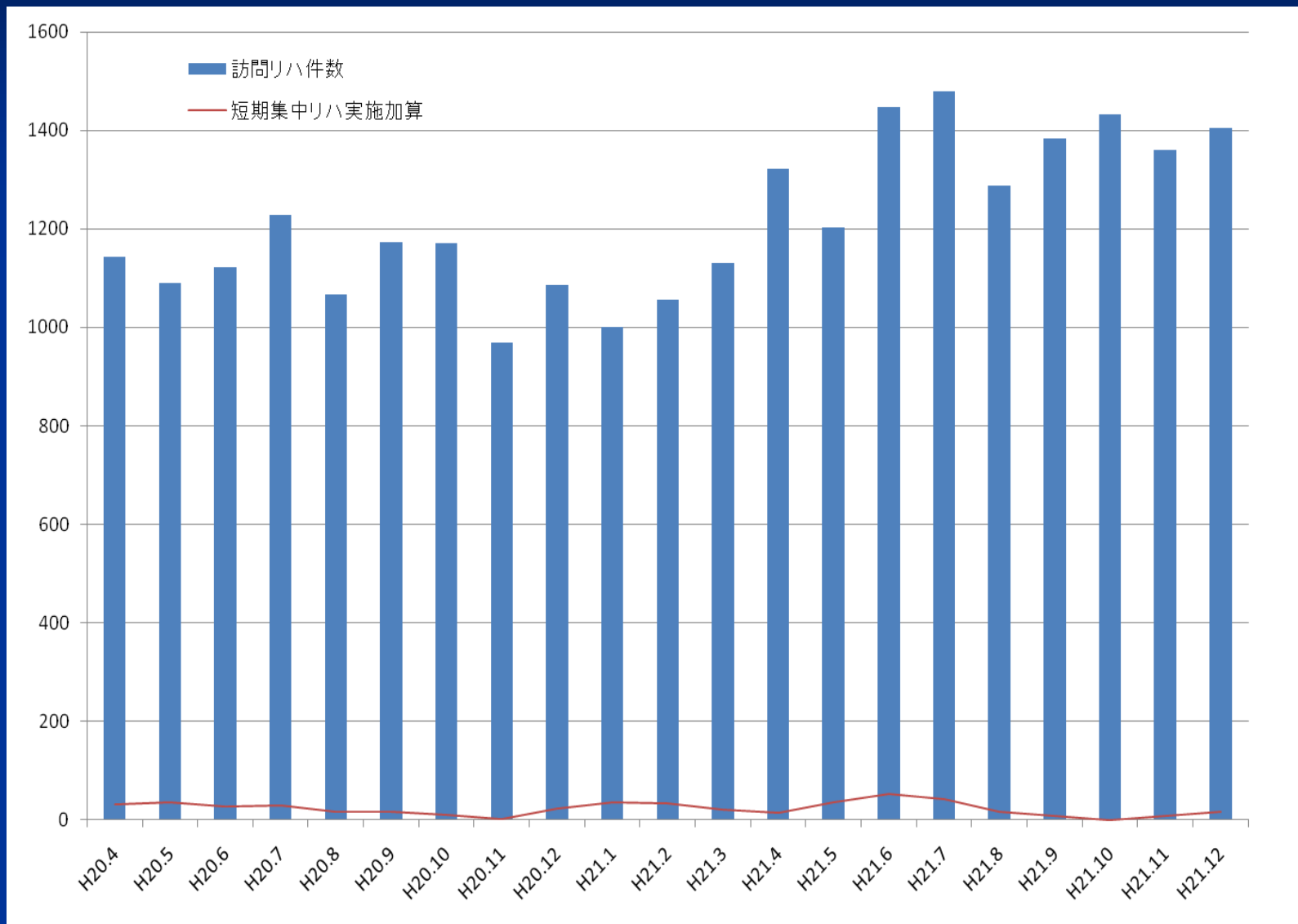
1. 平成20年度, 平成21年度の介護保険での当院の訪問リハ実施件数と短期集中リハ加算件数.
2. 平成20年度, 21年度の短期集中リハ加算を算定した当院の訪問リハ利用者宅の新潟市内における位置関係.

# 平成20年度, 21年度の訪問リハ実施件数と短期集中リハ加算件数の内訳



単位: 件

# 当院の過去2年間（平成21, 22年度）の訪問リハ 件数と短期集中リハ実施加算の推移



# 新潟市

新潟市ホームページより

(平成21年12月末現在)

人口／804,609人

男：387,949人

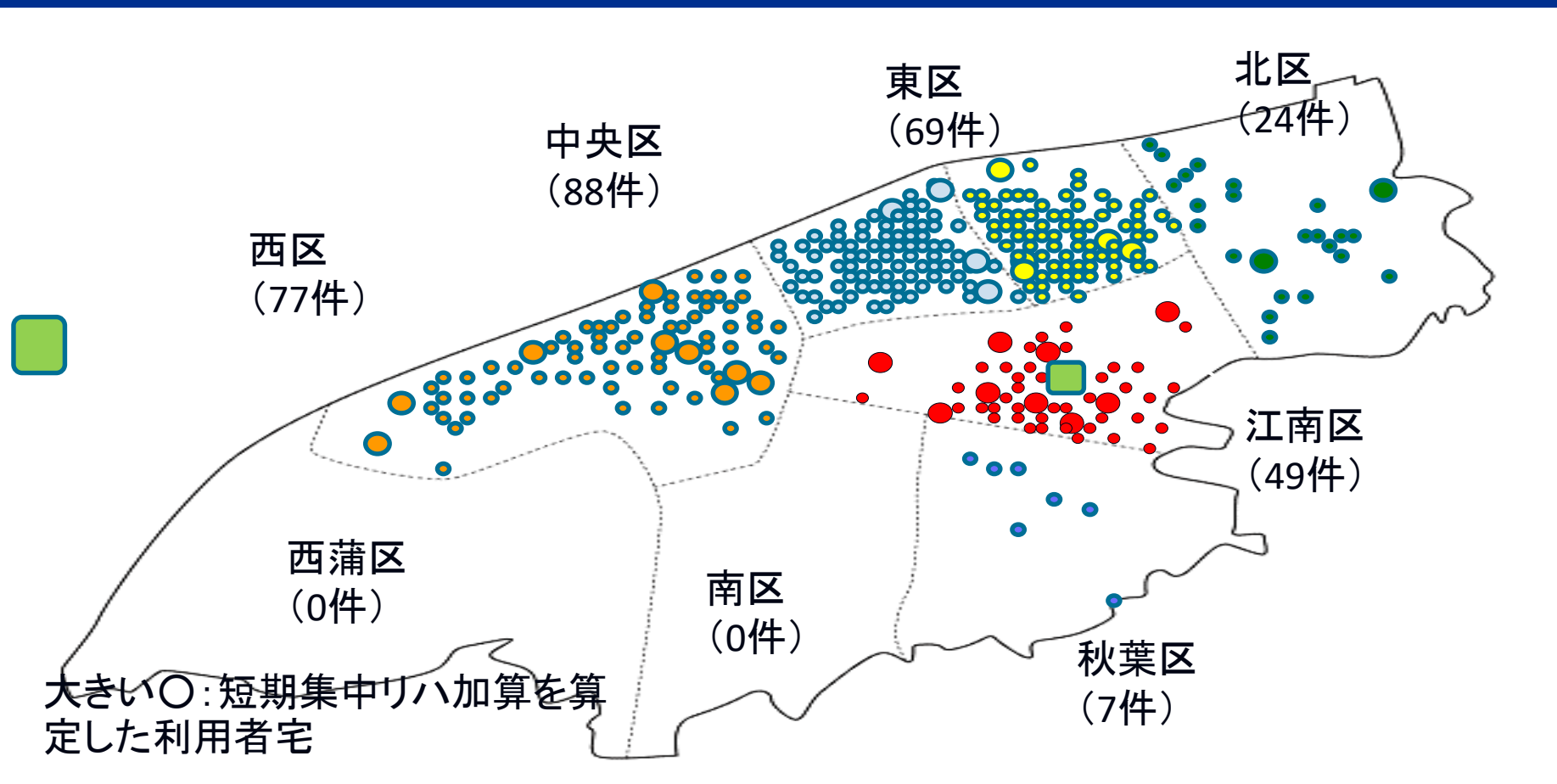
女：416,660人

世帯／309,921世帯

面積／726.10km<sup>2</sup>

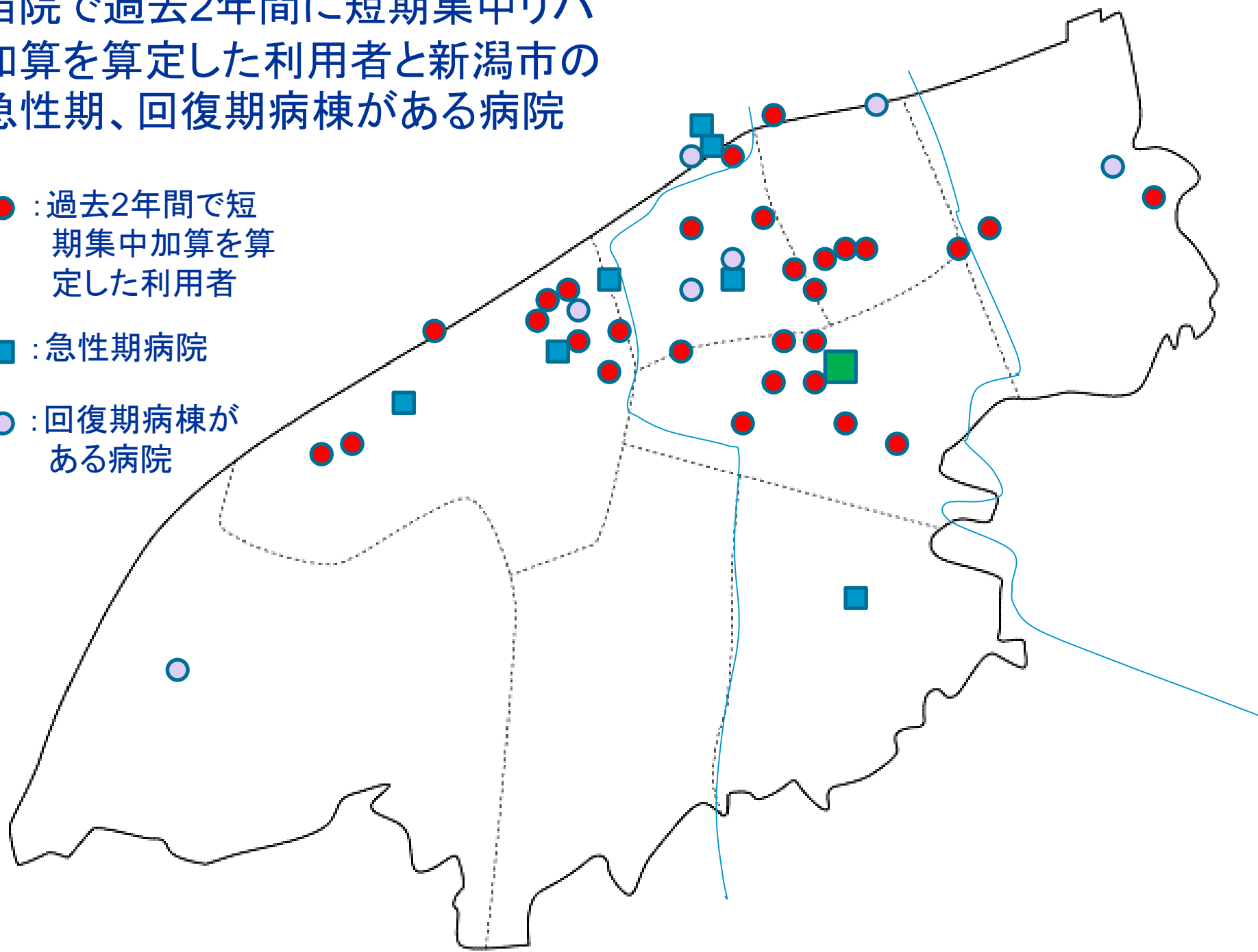


# 平成20年度, 21年度の介護保険訪問リハ利用者宅の新潟市内における位置関係



# 当院で過去2年間に短期集中リハ加算を算定した利用者と新潟市の急性期、回復期病棟がある病院

- : 過去2年間で短期集中加算を算定した利用者
- : 急性期病院
- : 回復期病棟がある病院

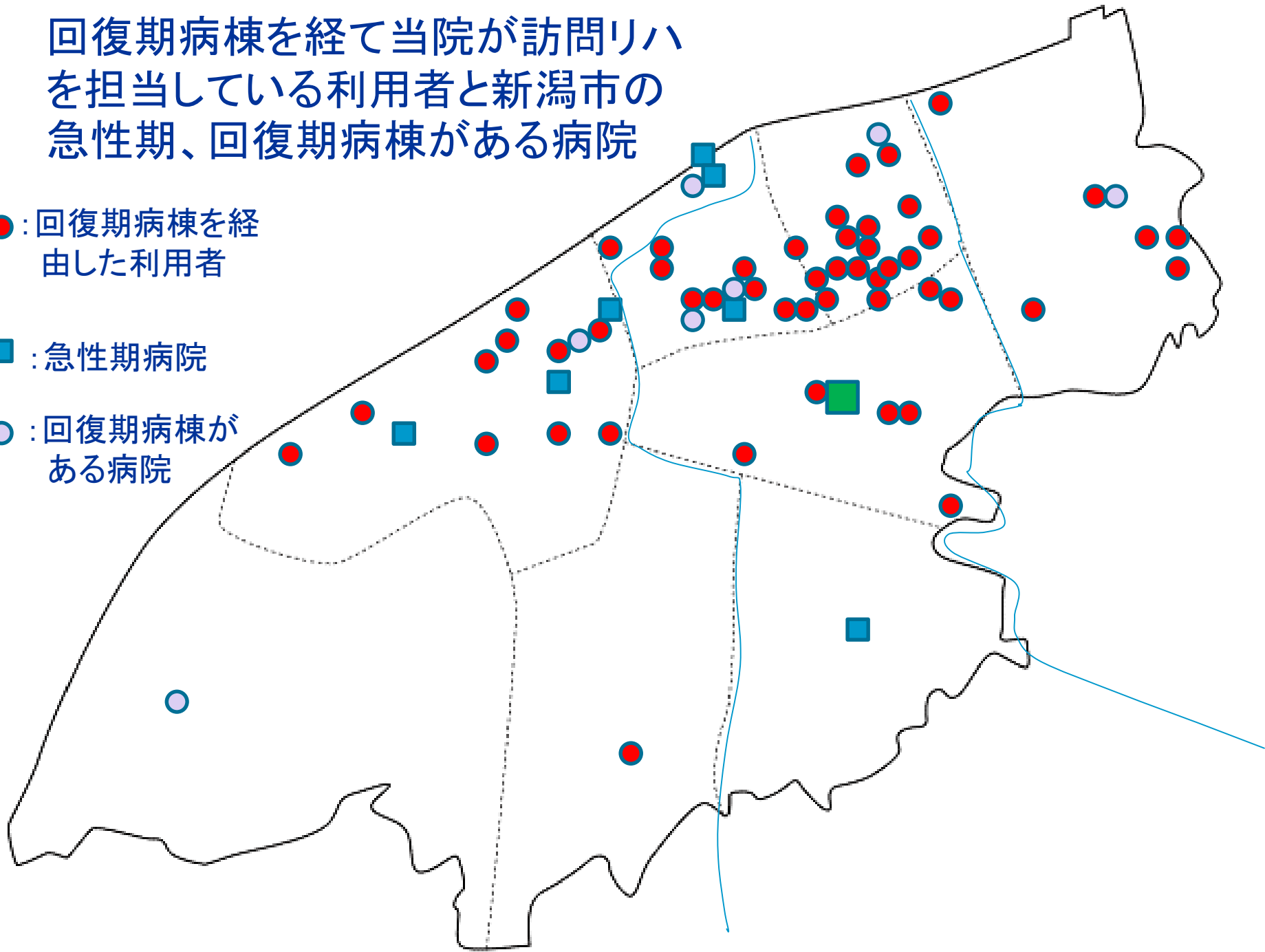


# 回復期病棟を経て当院が訪問リハ を担当している利用者と新潟市の 急性期、回復期病棟がある病院

● : 回復期病棟を経  
由した利用者

■ : 急性期病院

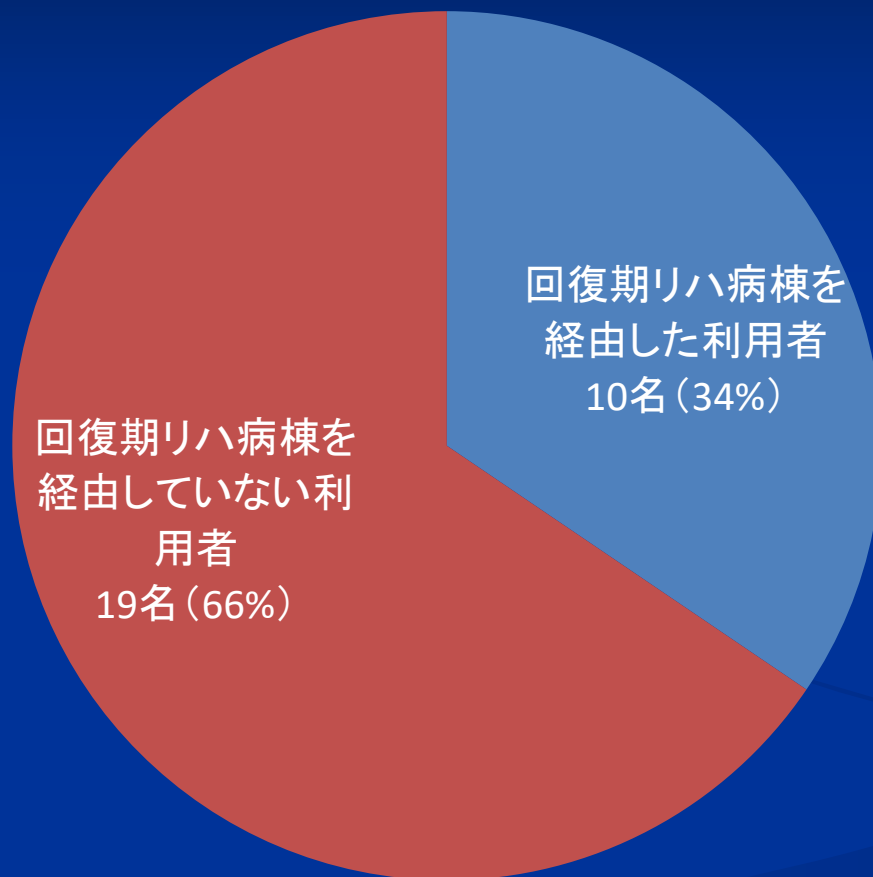
○ : 回復期病棟が  
ある病院





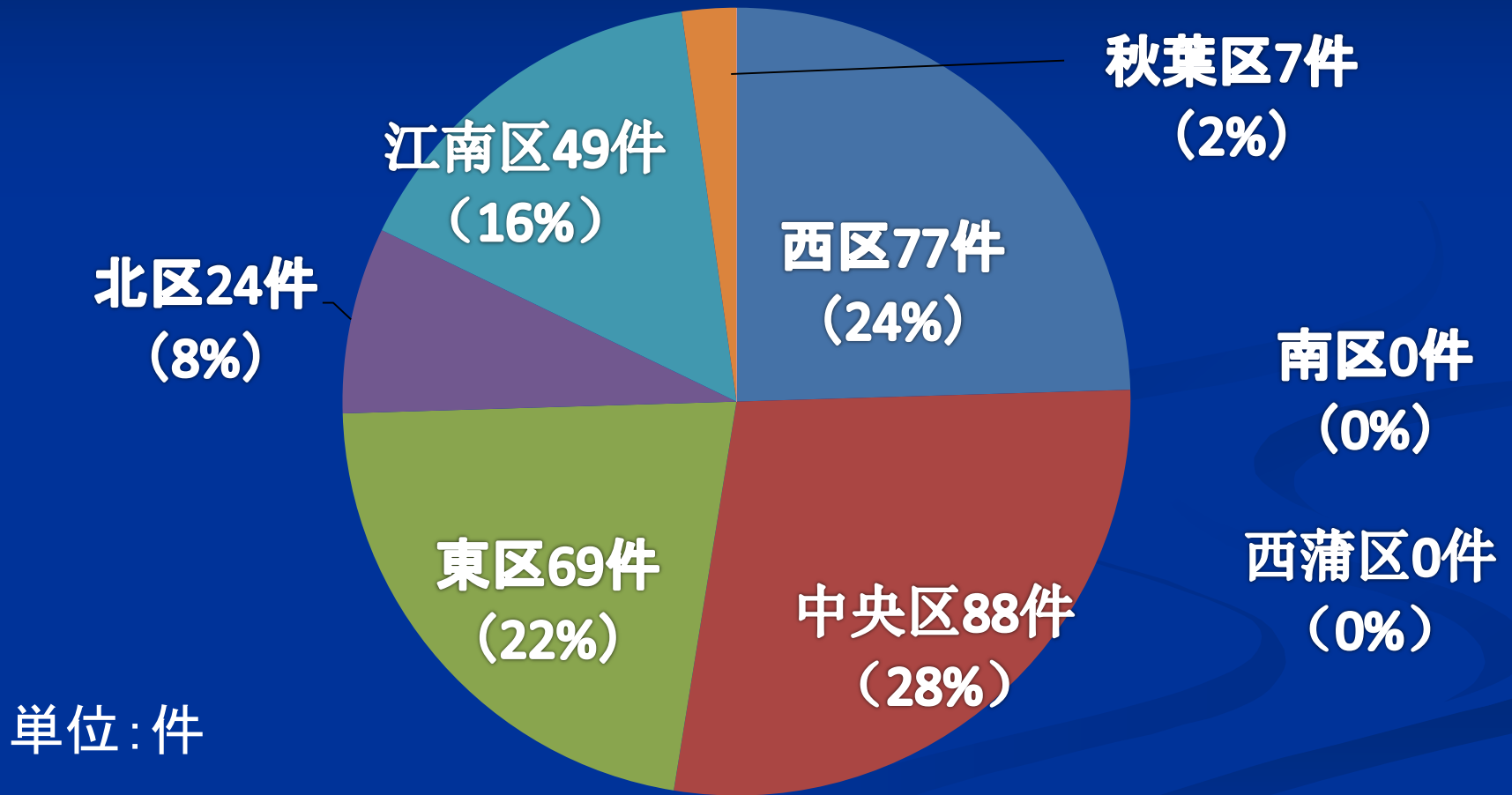
# 短期集中リハ実施加算をとった利用者の回復期リハ病棟経由の有無

n=29



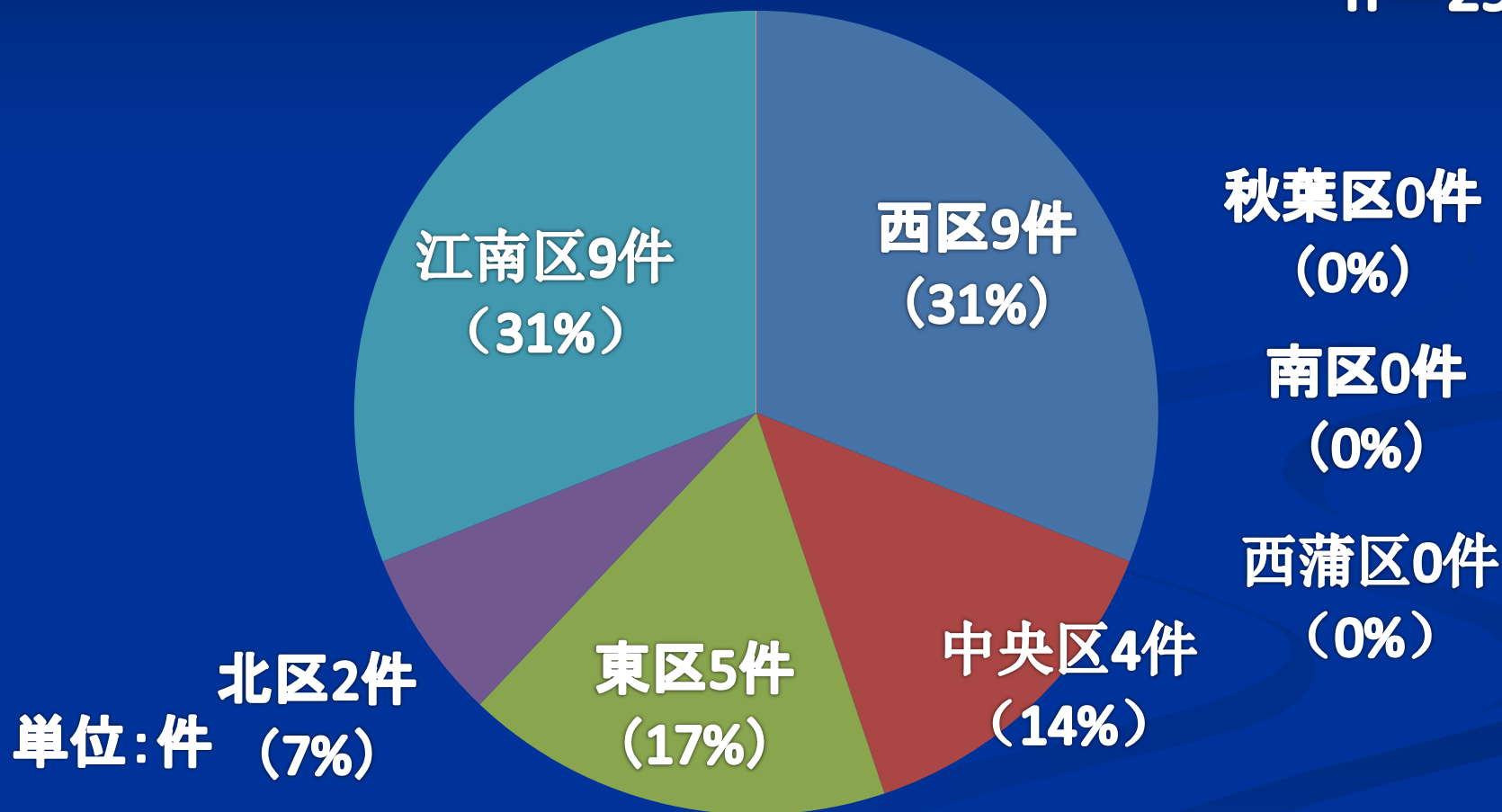
# 区毎の介護保険訪問リハ件数

n=314

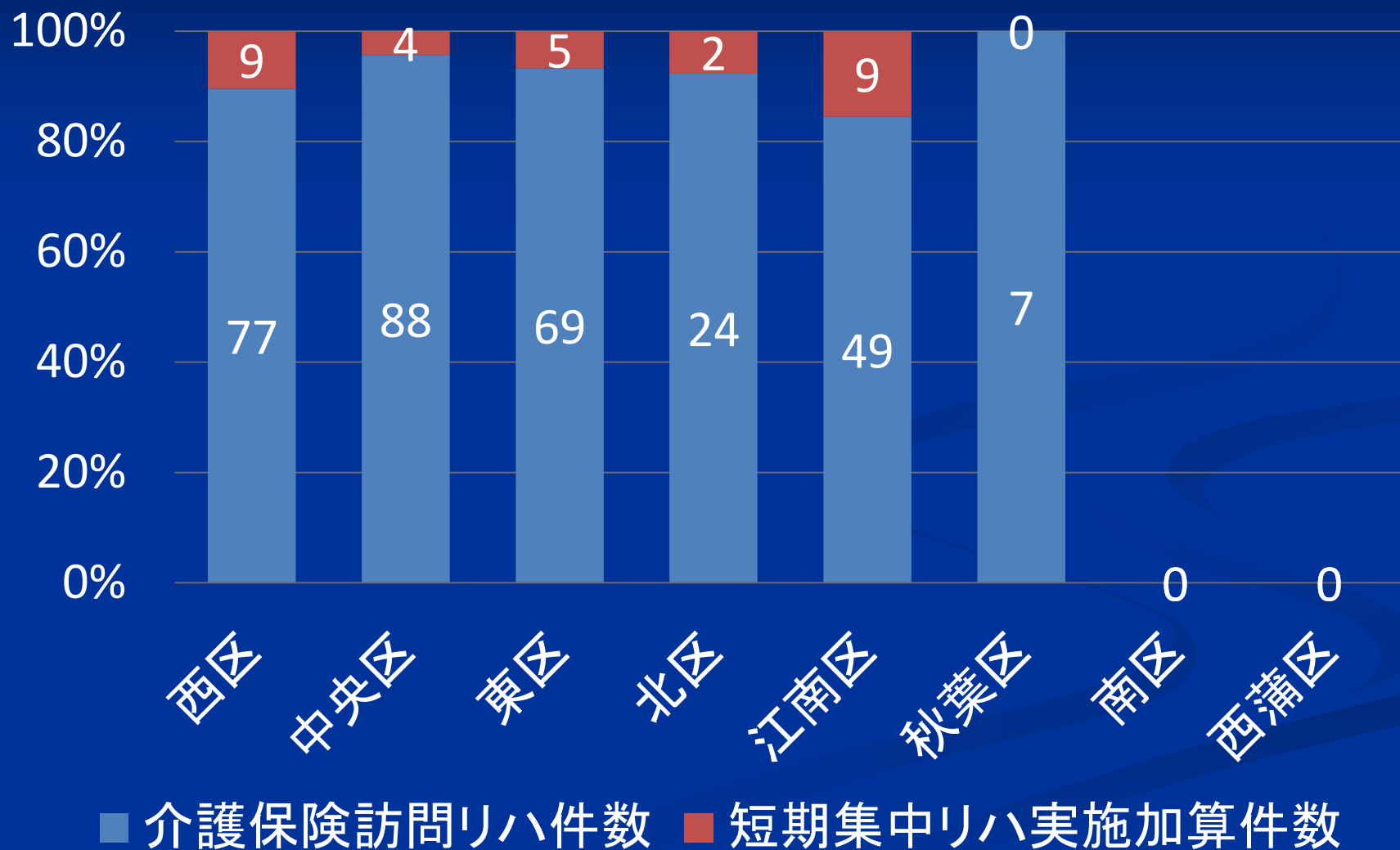


# 区毎の短期集中リハ加算算 定件数

n=29



# 区毎の短期集中リハ加算の割合



## まとめ～ 1

- 当院の訪問リハ利用者は新潟市内で人口が多い地域に多く広がっていた。
- 短期集中リハ加算算定者は人口が多い地域とは関係なく、西区、江南区に多くなっていた。
- 区毎にみると、短期集中リハ加算を算定した利用者の割合は西区、江南区が他の地域と比べて多かった。

## まとめ～ 2

- 当院の短期集中リハ加算は2%と極めて少なくなっていた。当院は診療所であり、退院直後の短期集中リハ加算は算定しにくい為と考えられる。
- 当院からの短期集中リハ加算算定者が人口が多い地域に集中していなかった理由としては、その地域に訪問リハを提供している回復期リハ病棟を有する病院があり、その病院からの訪問リハがその地域の退院直後の訪問リハを支えている為と考えられた。

## まとめ～ 3

- 現状では当院のような診療所からの訪問リハは回復期病棟を退院した直後の訪問リハを提供する機会は少なくなっている。しかし、回復期リハ病院の訪問リハが訪問しきれない範囲の利用者に対し、当院の様に広い範囲で訪問リハを提供できる事業所も必要であると考えられた。
- 今後は回復期病棟のある病院との連携を深め、退院直後の訪問リハを必要としている利用者に対しても継ぎ目の無い訪問リハの提供をしていく必要があると考えられた。

## まとめ～ 4

- 回復期リハ病棟のない事業所からの訪問リハは当院の様に広範囲に渡り、訪問リハを必要とする人へ必要な量の訪問リハを提供していくことが重要と考えられた。
- 療法士がより多くの診療所に雇用されることにより、また、“訪問リハステーション”が創設されることにより、より小さな地域で地域密着の訪問リハが展開できると考えられた。



# 短時間通所リハ・デイサービス施設概要

## 短時間通所リハ

営業時間:1時間以上2時間未満

営業日:月～金曜日

定員:20名

## 楽しいちデイサービス

営業時間:6時間以上8時間未満

営業日:月～土曜日

定員:月～金曜日・・・45名

土曜日・・・25名

※デイサービスであるが、PT・OTによるストレッチ、関節運動等の個別対応の時間を設けている(希望者にのみ対応)。



# 【当院及び当院の 短時間通所リハの概要】

診療科目：整形外科，リハビリテーション科

介護保険サービス：居宅介護支援，訪問リハ，  
通所リハ，通所介護，ショートステイ

\* 障害者リハビリセンター（障害者自立支援法）

定員：20名 営業日：月曜日～金曜日（祝祭日を除く）

時間帯：13:00～15:30

職員：理学療法士1名，作業療法士2名（うち新卒  
1名），看護師1名，介護職員6名



# 【当院短時間通所リハの利用者】

利用者：69名（平成22年6月30日現在．男性33名，女性36名）．

年齢：52歳～99歳（平均75.1歳）．

介護度：

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
10名	15名	14名	17名	9名	4名	0名

当院のケアマネジャーが居宅介護支援：4名（5.8％）．

当院の医師が主治医：12名（1.7％）．

通所リハ利用前後に当院を受診した利用者38名（55.1％）

利用頻度：週1回（38名：55.1％），週2回（27名：39.1％），

週3回（2名：2.9％），キャンセル待ち（2名：2.9％）

# 【当院の短時間通所リハ利用と他のサービス利用との関係】

「外来リハ」から移行した	3名 ( 4.3%)
退院直後もしくは介護認定直後	3名 ( 4.3%)
初めて通所サービスを利用した	25名 (36.2%)
他の「通所リハ」にプラスした	3名 ( 4.3%)
「通所介護」にプラスした	14名 (20.3%)
「通所介護」から移行した	3名 ( 4.3%)
「訪問リハ」にプラスした	7名 (10.1%)
「訪問リハ」から移行した	2名 ( 2.9%)
通所介護にプラスし訪問リハから移行した. 通所介護と訪問リハにプラスした. 等複数	9名 (13.0%)

# 対象

	短時間通所リハ(57名)	デイサービス(151名)
性別 (男女比)	<p>女性 32名 (56%) 男性 25名 (44%)</p>	<p>女性 78名 (52%) 男性 73名 (48%)</p>
介護度	<p>要介護4 3名 (5%) 要介護5 0名 (0%) 要支援1 9名 (16%) 要支援2 6名 (11%) 要介護1 12名 (21%) 要介護2 19名 (33%) 要介護3 8名 (14%)</p>	<p>要介護5 3名 (2%) 要支援1 6名 (4%) 要支援2 34名 (22%) 要介護1 25名 (17%) 要介護2 44名 (29%) 要介護3 29名 (19%) 要介護4 10名 (7%)</p>

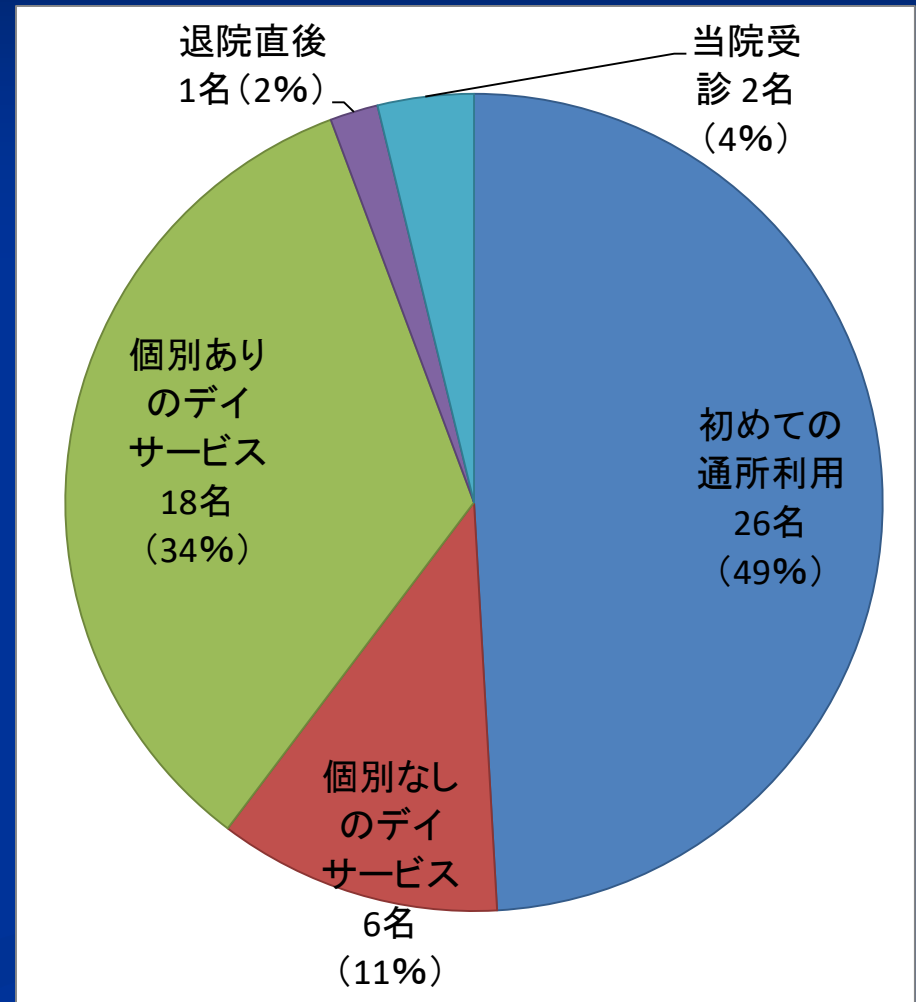
短時間通所リハ: 要介護1・2が半数を占める.

デイサービス: 要介護2・3が半数を占める.

# 結果－1

## (当院短時間通所リハ利用者の介護保険サービス利用状況)

「初めての通所利用」は26名(49%)で最も多く、「個別なしのデイサービス」は6名(11%)、「個別ありのデイサービス」は18名(34%)であった。介護保険の利用が初めてとなる「退院直後」は1名(2%)であり、「当院受診」は2名(4%)であった。



# 結果ー2

## (短時間通所リハ・デイサービスの利用目的)

短時間通所リハ	デイサービス
歩行能力を改善したいから(100%)	体力を向上させたいから(70.6%)
筋力を強くしたいから(88.5%)	筋力を強くしたいから(68.2%)
転倒を予防したいから(88.5%)	歩行能力を改善したいから(67.1%)
痛み・しびれをとりたいから(76.9%)	転倒を予防したいから(65.9%)
外出する機会にしたいから(76.9%)	他の人との関わりを持ちたいから(65.9%)
	会話をする機会を増やしたいから(65.9%)

※ 歩行改善項目・身体機能向上項目を赤、参加・交流項目を黄に色分けして記載した。

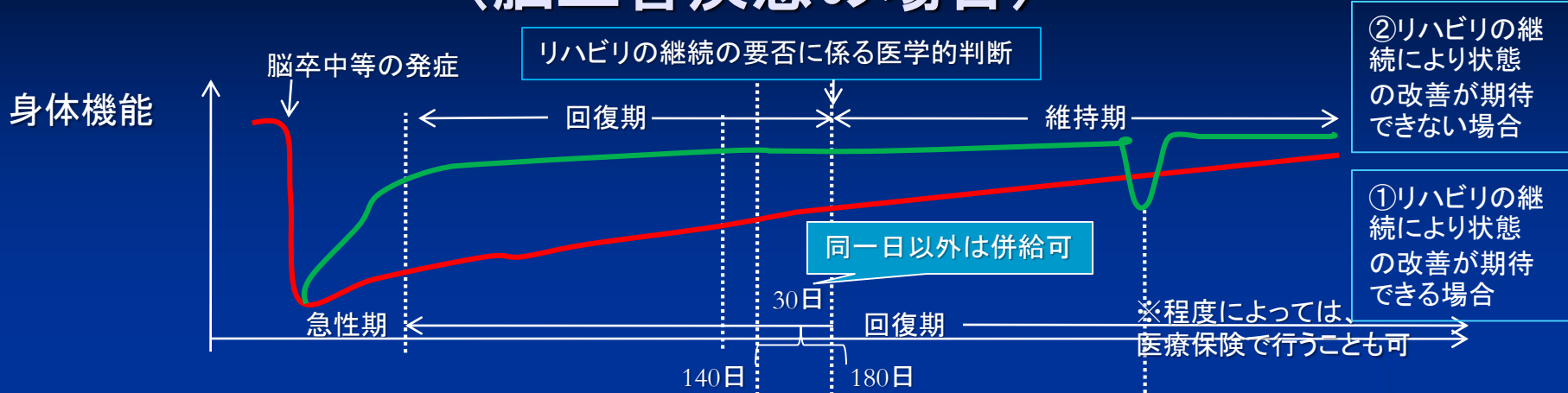


# 【今後の課題】

## ・退院直後の利用者が少ない。

- 他院，特に回復期リハ病棟を持つ病院への  
当院からの働きかけが不十分である点と，地  
域の病院に短時間通所リハそのものが知ら  
れていないことが一因であると考えられる。
- 退院直後の利用者の利用拡大を図り，当院  
の外来診療においてリハ適応の患者を早期  
に発見し，医療保険から介護保険サービスへ  
切れ目なく移行させることが必要である。

# H20の医療保険と介護保険のリハビリテーション (脳血管疾患の場合)



①リハビリの継続により状態の改善が期待できる場合

2時間  
個別

医療保険のリハビリ

算定日数上限の適用除外となる場合、引き続き医療保険より給付

医療保険による  
維持期リハ

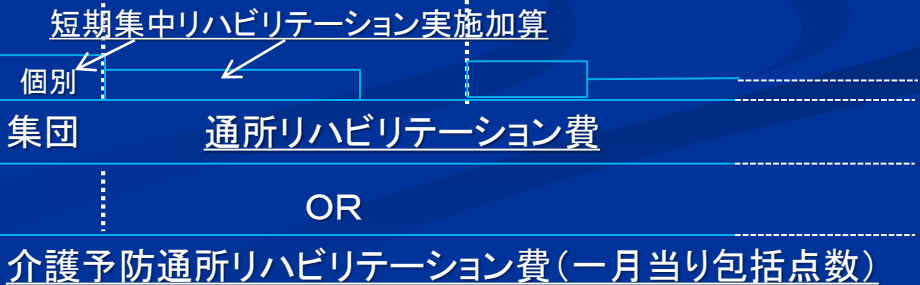
H20改定

※月13単位(1単位20分)までを上限

②リハビリの継続により状態の改善が期待できない場合



介護保険による  
維持期リハ



**回復期病棟を退院した後、  
訪問リハ・短時間通所リハを  
利用した症例**

# 症例紹介

- 氏名：K、H様
- 性別：女性
- 年齢：61歳
- 新潟県新潟市東区在住
- 家族構成：夫と二人暮らし 子供二人は別居
  - ※日中は独居
- 住居環境：一戸建て
- 要介護度：要支援1

# 経過

- H20年 11月3日

脳梗塞発症 右上下肢の脱力、呂律不良により  
新潟市民病院入院

- H20年 11月17日

新潟リハビリテーション病院回復期病棟入院  
理学療法、作業療法、言語療法実施する

- H21年 3月29日

新潟リハビリテーション病院回復期病棟退院し  
自宅退院へ

# 経過

■ H21年 4月10日

担当ケアマネージャーの依頼より訪問リハビリ開始する

他事業所の通所介護も週2回利用される

身の回り動作・家事動作などADLは自立しているが、家屋内で転倒するなど歩行動作不安定であり移動動作の安定・転倒の予防を目標にリハビリプログラム実施する

# 経過

## ■ H21年 8月11日 短時間通所リハビリ開始

患者が通所介護に不満があること、身体能力向上のプログラムを強く望んでいることより、訪問リハ担当理学療法士が当施設で行っている短時間通所リハビリを紹介する。体験利用後、通所介護の利用を終了して短時間通所リハの利用を開始となる

# 経過

H22年1月現在、訪問リハ週1回・短時間通所リハ週2回実施している

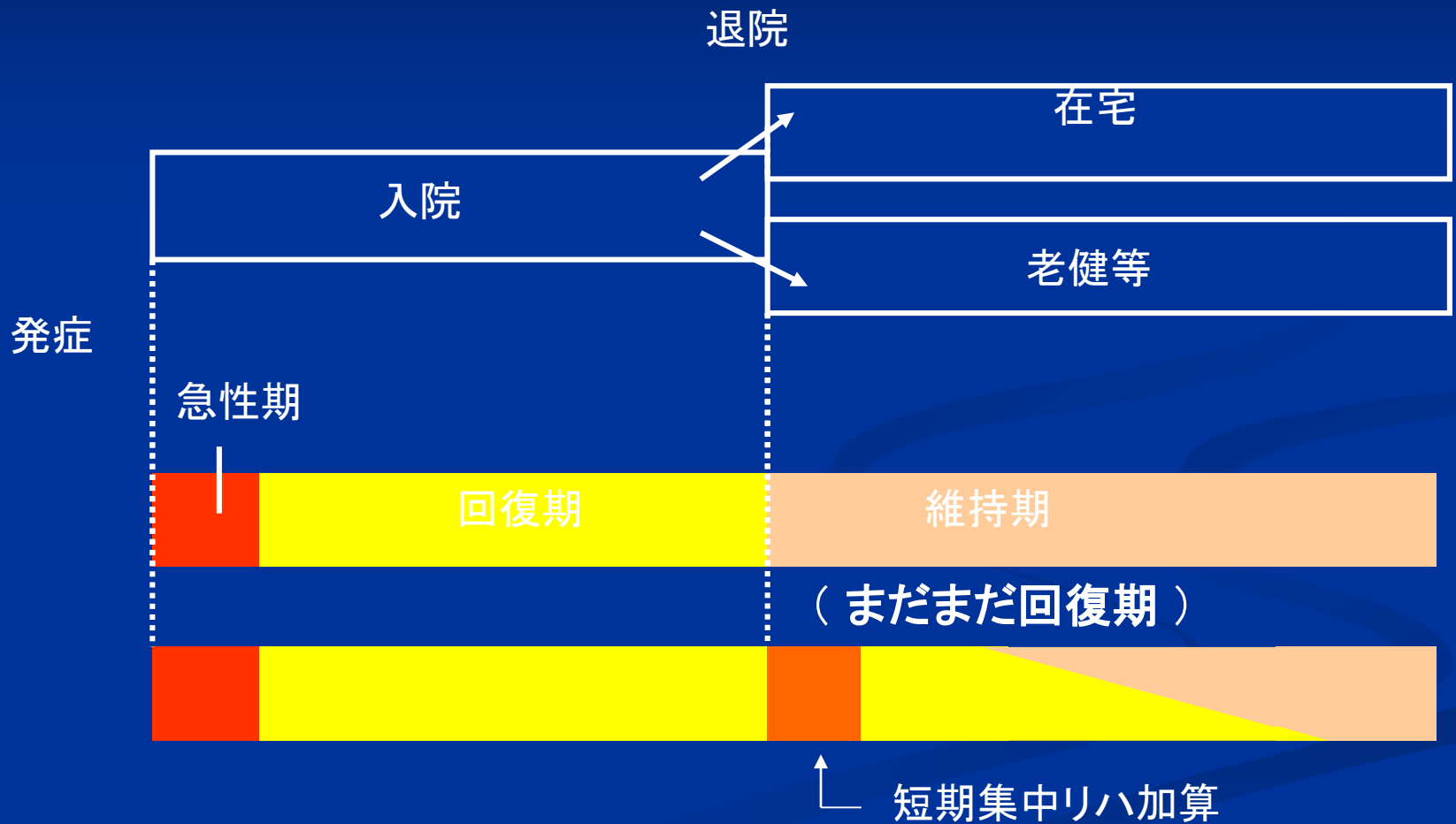
患者は屋外歩行を3キロ程度歩ける、公共交通機関を利用して外出が出来るなど、身体能力向上により活動範囲が拡大され意欲の向上に繋がっている



# 利点

- 訪問リハと短時間通所リハが同時進行で一体的に行うことができる。
- 訪問リハと短時間通所リハが同じ事業所の為、情報交換が迅速に行えている
- 回復期病棟から自宅退院後も患者に適した医療が継続的に行えており、自立した在宅生活を支援することが出来ている

# 実際には退院後も...



# 機能の回復⇔ADLの改善

- Br.stage等で表現される麻痺の回復はプラトーを迎えても、その後もADLは改善する。



これを“回復期”と呼ぶか，“維持期”と呼ぶか？



**訪問リハ開始後1ヶ月**

**(※学会等での写真の公開については本人、家族の同意を得ている)**



“歩く練習”と“介助する練習”（訪問リハ開始後5ヶ月）



自宅周囲での歩行ex (訪問リハ開始後6ヶ月)

# 在宅サービスの役割分担

デイケア  
デイサービス

訪問リハ

それぞれにどのようなリハを期待できるのか？  
どのように役割分担できるのか

→未だ不明確

# 在宅サービスの機能の明確化が必要

- 在宅で何ができるのか明らかにされなければ、回復期は安心して早期に退院させられない。



在宅に関わる側（訪問リハスタッフ・デイケアスタッフ）の課題



# 将来、在宅リハが量的・質的に拡充されたら...

- これまで入院(回復期)で行われてきたリハの一部を在宅リハに移管が可能となる？

例1) 介助歩行が可能となったら退院とし、その後の見守り、自立への向上はデイケア、訪問リハで。

例2) 入浴は、退院当初はデイサービスなどの通所系サービスを利用しつつ、訪問リハ、訪問介護により、自宅の風呂で入浴の練習を行う。

(→回復期病棟における家庭浴での練習は不要となる)

例3) 住宅改修は、退院の時点では必要最小限とし、退院後、自宅でのADLが安定してから、再度行う。

# 回復期リハビリテーション病棟の規定

回復期リハビリテーション病棟は・・・(中略)・・・ADL能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的として・・・(後略)



回復期リハビリテーション病棟は・・・(中略)・・・可能な限り早期の家庭復帰を目的とし・・・(後略)  
(ADL能力の向上による寝たきりの防止は在宅リハにより行う)

## ケース②

- 75歳男性，妻と二人暮らし
- 平成11年，脳梗塞＋脳出血を発症
- 高齢の妻による介護により，10年，在宅を継続
- 要介護5，PVS
- 平成20年12月訪問リハを開始。



四肢の重度の拘縮

車いすにも乗ってはいるが...





**利用者本人75歳，介護者80歳**

**(※写真の公開については本人，家族の同を得ている)**

# 手指の屈曲拘縮(屈筋群の短縮)による 手掌の保清困難



手指の保清, 拘縮の  
進行予防を目的として  
タオルを握らせる

→タオルの出し入れが  
困難

# 腱切り術を施行



両側の長掌筋腱，浅指屈筋腱，深指屈筋腱の9本の腱を切断  
(ゆきよしクリニックにて日帰りオペ)



# 腱切り術の施行

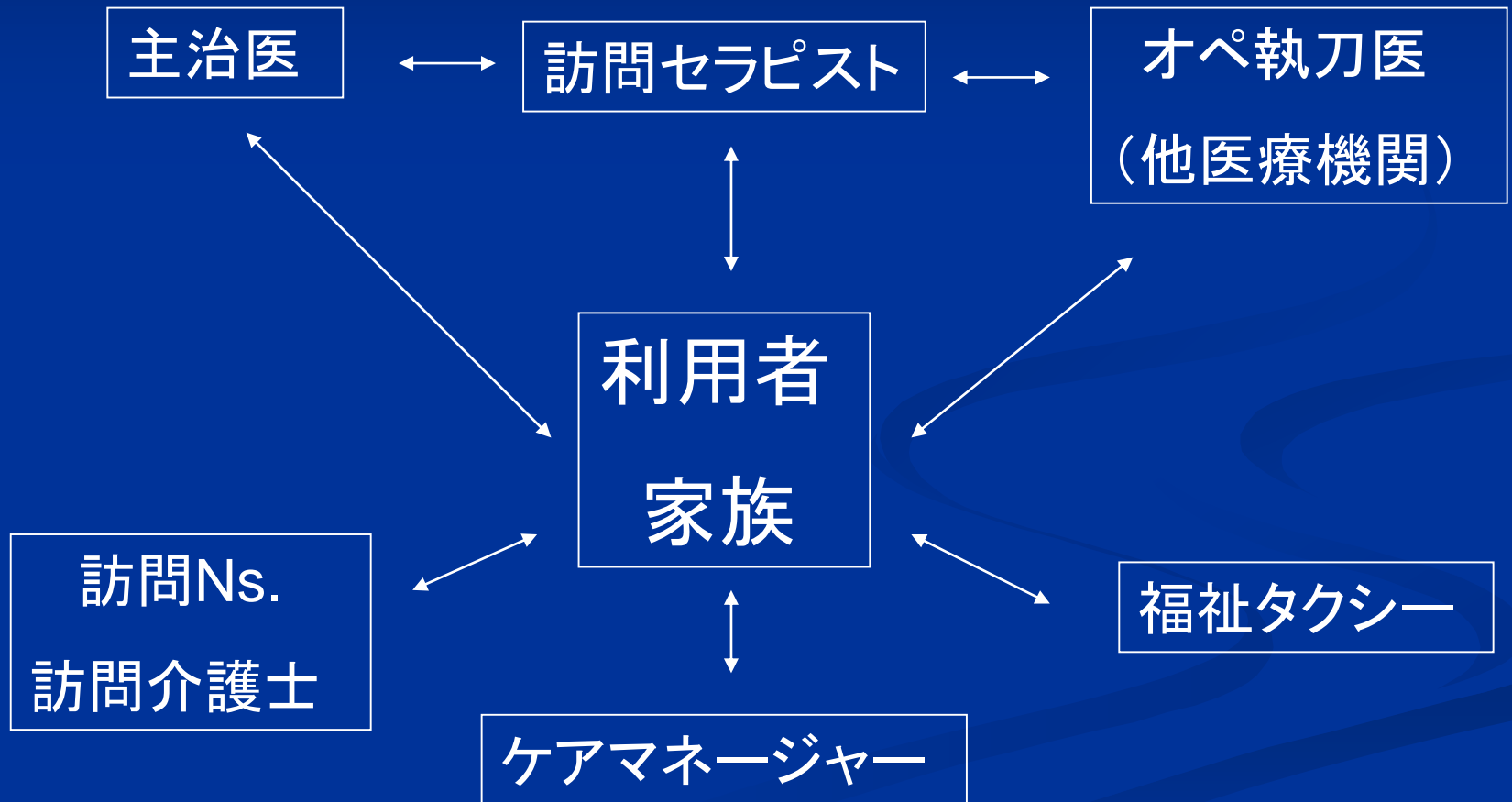


手術前

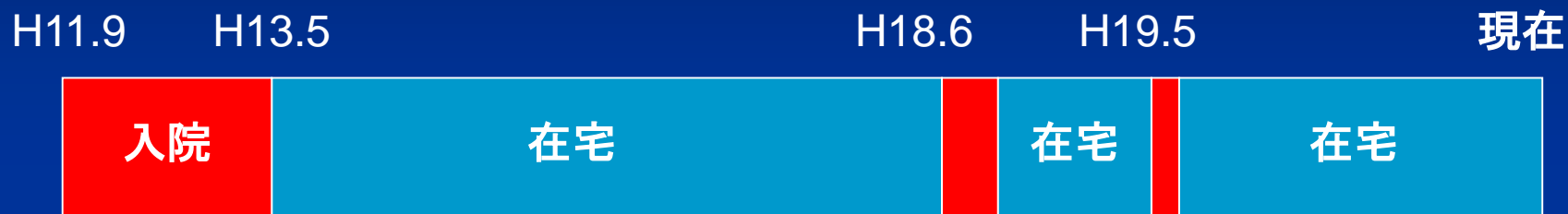


手術後

# 多職種間の連携



# 発症から現在までの10年の間に...



発症

この間、シームレスにリハが関わらなければ、どこかで拘縮が生じ、5年、10年の間に、徐々に進行する。  
このようなケースでは、訪問リハ、デイケア等の継続的な関わりが必要。

訪問リハ、デイケア等が継続して行われていれば...



ここまでの進行はなかったのではないのか  
Opeも必要なかったのではないのか.

終末期リハの究極の目的は、きれいな  
ご遺体を作ること

(大田)

(最後の)他職種との連携



納棺師(おくりびと)に、きれいなご遺体を  
引き継ぐこと.

# 新潟県障害者リハビリテーションセンター

・新潟県障害者リハビリテーションセンターは新潟ふれ愛プラザ内にあります。



# 新潟県障害者リハビリテーションセンターとは

- ・日常生活の身辺処理が自立又は一部自立していない肢体不自由者が、総合的リハビリを受けて、就労等により社会的自立を目指す更生施設です。



▲ 利用者様玄関入り口

## ▼ 居住棟全景

- ・利用者様の生活する快適な空間を提供しております。





# 居住棟のようす



▲ 居室(洋式)



▲ 浴室



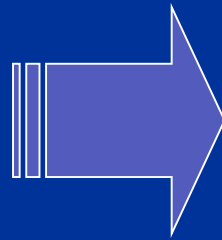
▲ 談話室にて談笑される利用者様

# 福祉サービスの体系(身体障害関係)

## 新サービス

## 旧(現行)サービス

ホームヘルプ  
デイサービス  
ショートステイ  
療護施設  
更生施設  
授産施設  
福祉工場  
福祉ホーム



居宅介護(ホームヘルプ)  
重度訪問介護  
重度障害者等包括支援  
短期入所(ショートステイ)  
療養介護  
生活介護  
障害者支援施設での夜間ケア等(施設入所支援)  
共同生活介護(ケアホーム)  
自立訓練(機能訓練)  
就労移行支援  
就労継続支援  
移動支援  
地域活動支援センター  
福祉ホーム

# 新潟県障害者リハビリテーションセンターの福祉サービス

肢体不自由者更生施設(入所・通所)  
ショートステイ



日中活動の場として

- ・自立訓練(機能訓練)
- ・就労移行支援
- ・生活介護

住まいの場として

- ・障害者支援施設の施設入所支援

ショートステイ

スポーツ・レクリエーション

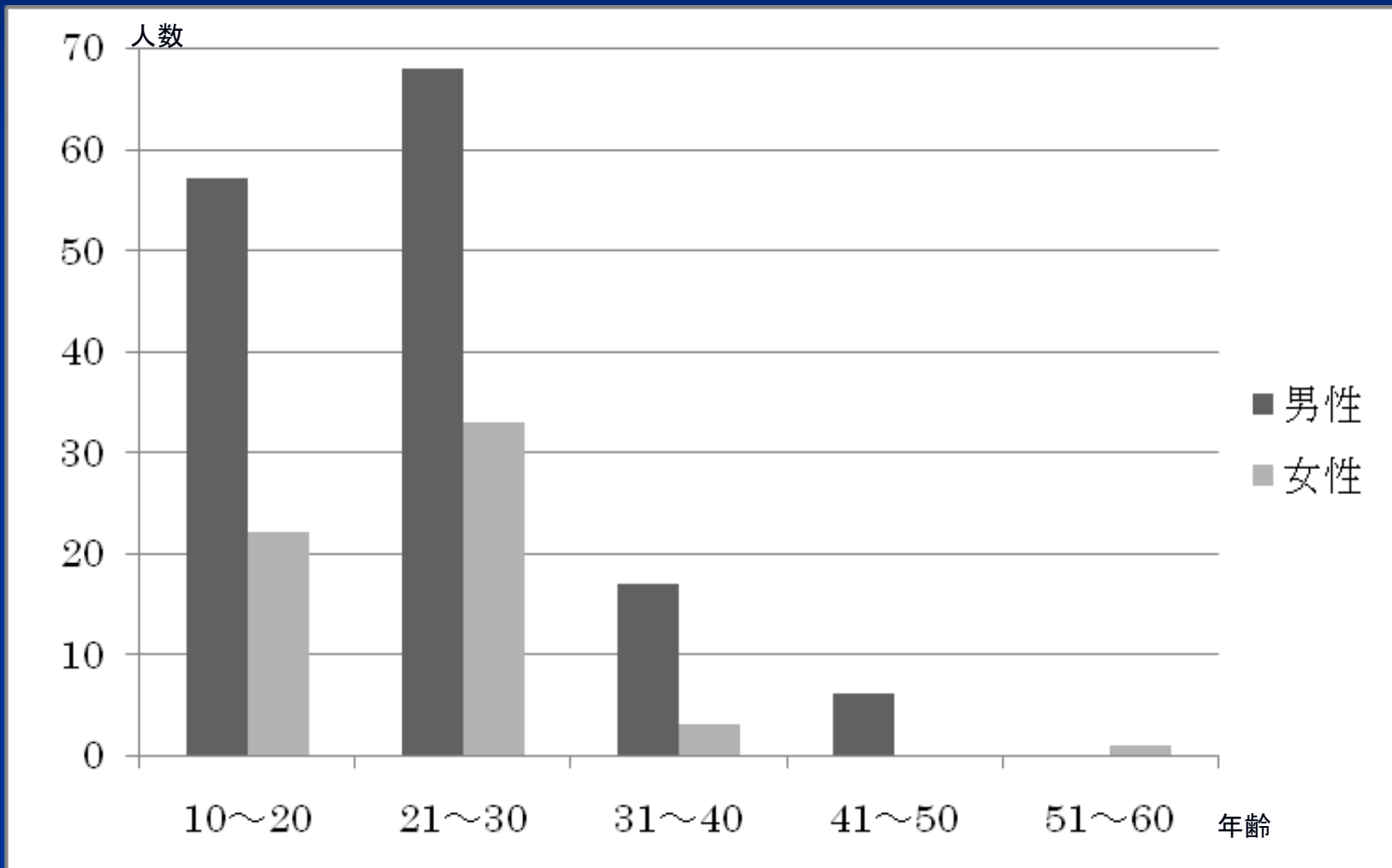
総合的リハビリテーション

医学的・身体的  
リハビリテーション

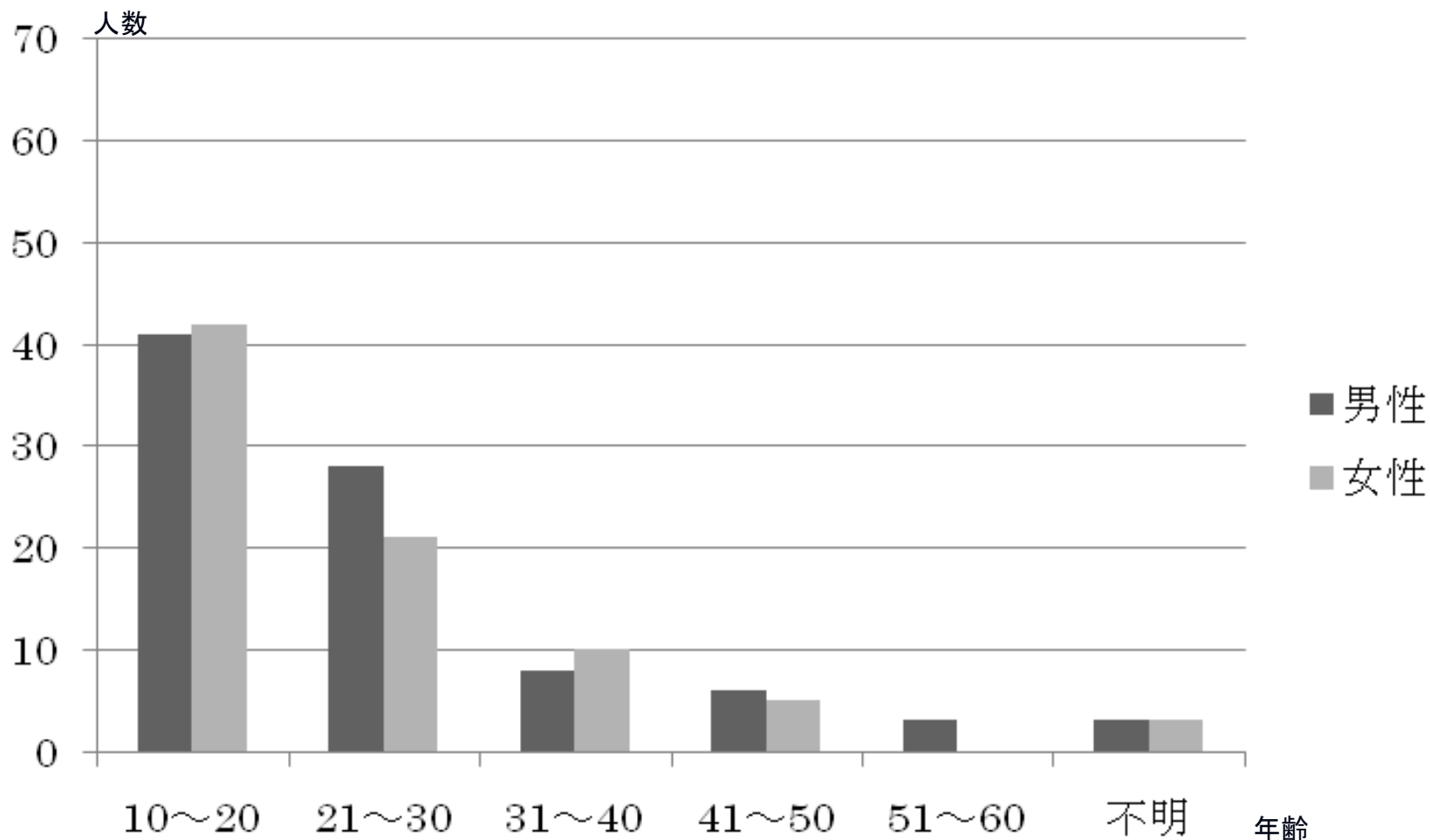
職業的リハビリテーション

心理・社会的リハビリテーション

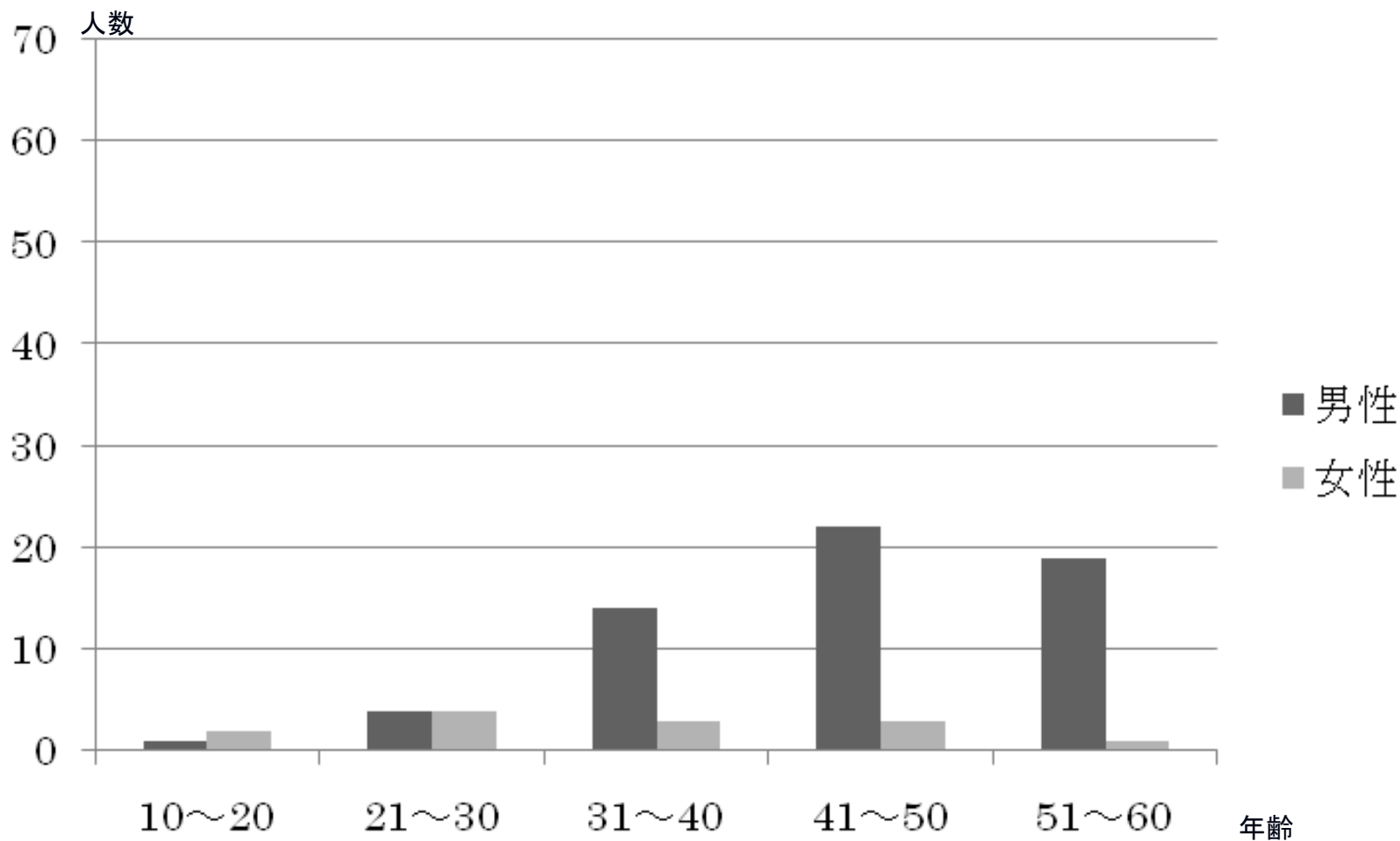
# リハセンター利用者 (昭和25～30年 年齢別分布)



# リハセンター利用者 (昭和49～60年 年齢別分布)



# リハセンター利用者 (平成18～20年 年齢別分布)



# 調査内容

- ・平成20年1月以降、新潟県障害者リハビリテーションセンター（以下当センター）利用者における回復期リハ病棟経過状況。

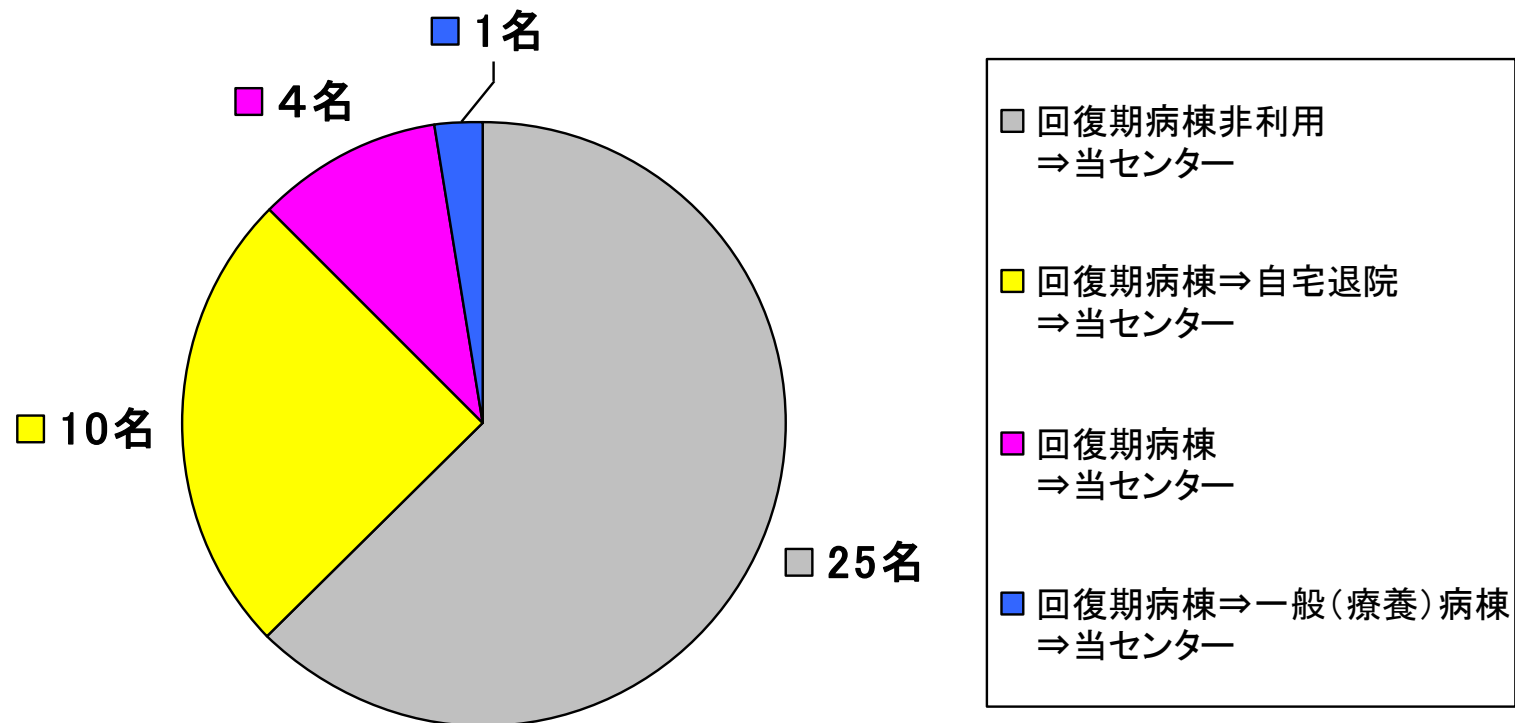


## 回復期リハ棟経由状況（H20.1～現在）

- ・回復期リハ棟経由者数・・・15名
- ・回復期リハ棟非経由者数・・・25名

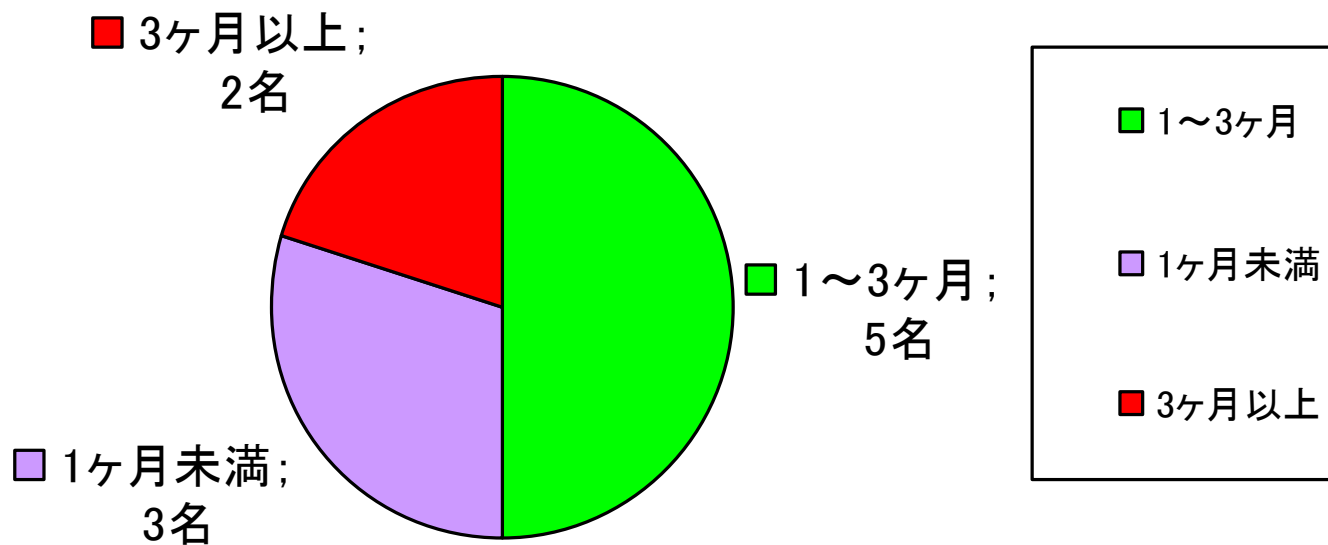
# 回復期リハ病棟経由状況（H20. 1～現在）

当センター利用までの経緯（N=40）



# 回復期リハ棟経由状況（H20.1～現在） （自宅退院後当センター利用）

## 在宅期間内訳（N=10）



## 疾患内訳（回復期リハ棟経由利用者）

・脳血管障害・・・12名

・頸髄損傷・・・3名







6:16  
24

6:16  
24

Beijing 2008  
Paralympic Games

